

鹿児島市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート (令和2年度実績)

基本目標1(積極戦略1)	しごとで活力を「つくる」	・・・・・・・・P1
基本目標2(積極戦略2)	結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」	・・・・・・・・P11
基本目標3(積極戦略3)	まちの魅力を「みがく」	・・・・・・・・P21
基本目標4(適応戦略1)	ひと・まちを多彩に「つなぐ」	・・・・・・・・P30
重点戦略1～4		・・・・・・・・P38

基本目標

1 しごとで活力を「つくる」

検証シート総括表 (R2年度)

<概要>	
(1) 評価 (数値目標・KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔数値目標〕

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人

H28実績			
実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)
27,279 *	-58.2%	c	B
274,569 *	-75.6%		

根拠統計等
(国)経済センサス
(国)経済センサス

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)					
①新事業・新産業創出の支援	1	新たなビジネス展開に取り組む事業者数	(H26) 8	127	事業者 (7年間)
		本市の補助金を活用した新たなビジネス展開の事業化率	(H28) 36	60	%
②経営改善の支援	2	産業振興、創業支援、新事業展開支援資金の利用件数	(H26) 1,317	1,350	件
③人材の確保	3	首都圏等からのクリエイティブ人材の移住者数	-	42	人 (6年間)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)					
①商業・サービス業の活性化	4	空き店舗等の再生などによる新規就業者数	-	27	人 (6年間)
②ものづくり産業の活性化	5	本市の事業活用による商談成約件数	(H26) 11	357	件 (7年間)
③農林水産業の活性化	6	本市支援による新規就農者数	(H26) 5	41	人 (7年間)
(3) 若い世代をはじめとする雇用機会の拡大					
①創業・第二創業への支援	7	本市支援による新規創業者数	(H26) 36	252	者 (7年間)
②企業立地の推進	8	企業立地件数	(H26) 7	49	件 (7年間)
③若者、女性、高齢者等の活躍促進	9	本市の助成金を活用して雇用される人数	(H26) 426	2,882	人 (7年間)

H28実績						根拠統計等
実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)	R元参考 (実績値)	R元参考 (評価)	
127	100.0%	c	B	110	c	(市)事業実績
40	16.7%			42	(市)事業実績	
308	22.8%	c	B	1,185	c	(市)事業実績
31	73.8%	b	A	20	c	(市)事業実績
19	70.4%	b	A	8	c	(市)事業実績
285	79.8%	a	A	275	a	(市)事業実績
53	129.3%	a	A	45	a	(市)事業実績
208	82.5%	a	A	175	a	(市)事業実績
42	85.7%	a	A	34	a	(市)事業実績
2,331	80.9%	a	A	2,042	a	(市)事業実績

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

数値目標及び主な施策やKPIの進捗を踏まえた全体の評価

しごとで活力を「つくる」の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>数値目標「事業所数」及び「従業者数」については、ともに基準値を下回っており、あまり達成されていない。これは、全国・県においても同様の状況にあり、市内で大半を占める小規模の事業者の減少等が影響していると考えている。</p> <p>地域産業の競争力強化に向けたものづくり産業、農林水産業の活性化は、十分に達成されているとともに、人材の確保や商業・サービス業の活性化は概ね達成されているが、一方で、新事業・新産業創出の支援や経営改善の支援にかかるKPIについては、あまり達成されていない。</p> <p>また、創業・第二創業への支援や企業立地の推進、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組むことで、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大は十分に達成されている。</p>	<p>新事業・新産業創出の支援について、補助事業に対する継続的なサポートのほか、クリエイティブ産業の育成支援や事業化された取組のPR等を引き続き進めていくほか、経営改善の支援については、より円滑な資金調達を支援するため、創業支援資金等の保証料補助拡大の対象となるセミナー等を追加するなど、さらなる推進を図ることで、引き続き、安定した雇用や地域の活力を生み出すまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開する。</p>

検証会議の意見	
<p>数値目標については、市内で大半を占める小規模の事業者の減少等が影響していると考えられ、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、地域産業に与える新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、経済団体や地域金融機関等と情報共有を図りながら、事業者等のニーズに応じた施策の充実を図るべきである。</p> <p>また、数値目標については、第2期総合戦略において、全国の傾向や社会情勢を考慮しながら、妥当性のある目標値を検討すべきである。</p>	B

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人

H28実績	
実績値 (R2)	対目標値
27,279 *	-58.2%
274,569 *	-75.6%

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<概要>	
(1) 評価 (KPI)	(2) 検証会議の意見
a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)									
① 新事業・新産業創出の支援	1	新たなビジネス展開に取り組む事業者数	(H26) 8	127	事業者 (7年間)	127	100.0%	c	110
		本市の補助金を活用した新たなビジネス展開の事業化率	(H28) 36	60	%	40	16.7%		42
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
ヘルスケア・環境分野における企業間・産学間等の事業化支援		新サービス等の創出に向けた取組に対し助成するとともに、ヘルスケア分野のビジネスアイデアの創出とその事業化支援(事業化支援:4者)、経済産業省「認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業」を活用したプロジェクトの支援のほか、産学連携のきっかけづくりを目的としたマッチングイベント(8回)を実施した。これらの支援の結果、鹿児島産「健康食」の開発を支援する機能性表示食品開発支援サービスの創出プロジェクトや『withコロナ』『afterコロナ』に向けた健康経営・働き方改革への実践的な取組みの開発などに繋がった。 また、補助金を活用して事業化に至った後も、事業者の希望に応じて経営面でのアドバイスを受けることができるように、産業振興アドバイザーによる継続的なサポート体制を確保している。 ヘルスケア分野:会員5者増、助成3件。 新事業展開分野(環境分野を含む):会員12者増、助成1件							
デザイン等のクリエイティブ産業の育成支援と集積促進		「かごしまデザインアワード」や人材育成セミナー等の開催などを通じて、デザイナー等の人材育成や製品等の競争力強化を図ったほか、デザイン・コンテンツ業の企業立地にも取り組んだ。 「かごしまデザインアワード2020」応募件数:422件、セミナー参加者:130人							
市が保有する統計・地理情報等のオープンデータ化の推進		本市ホームページにおいて公開している公共施設の位置情報等のデータ数を拡充した。(R元年度末68件⇒R2年度末72件) 市民のひろば等での周知広報に努めた。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、「本市の補助金を活用した新たなビジネス展開の事業化率」が目標値を下回り、あまり達成されていない。これは、開発段階のものが未だ事業化されていないためであると考えている。 R2年度の取組状況としては、ヘルスケアなどの分野における事業化支援(事業化後のサポートを含む)や、クリエイティブ産業の育成支援に取り組んだほか、オープンデータについては、本市ホームページにおいて公開している公共施設の位置情報等のデータ数を拡充するとともに、市民のひろば等での周知広報に努めた。	専門家による事業化支援や、産学連携のためのマッチング支援、補助事業に対する継続的なサポートのほか、クリエイティブ産業の育成支援や事業化された取組のPR等を引き続き進めていく。 オープンデータについては、利用者の意見・要望を踏まえたうえで、公開するデータの充実を図るとともに、周知広報に努める。 【主なR3年度休止事業】 ・クリエイティブ産業創出支援事業



検証会議の意見	
KPIについては、事業化率の進捗が伸び悩んでおり、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、事業化に至っていない理由や今後の見通しなどを把握した上で、事業化までの進捗状況に応じた支援方法を検討するほか、引き続き事業者に対するサポートに努めるべきである。	B

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	H28実績	
				実績値 (R2)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279 *	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569 *	-75.6%

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要>	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)	2								
② 経営改善の支援		産業振興、創業支援、新事業展開支援資金の利用件数	(H26) 1,317	1,350	件	308	22.8%	C	1,185
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
経営基盤の安定・強化に向けた融資制度の拡充		中小企業者等の円滑な資金調達を支援するため、創業支援資金において、従来の一般保証に加え創業関連保証(国の特別保証)を利用可能とした。また、金融機関個別訪問や広報リーフレットの配布等により、経営改善の支援の取組みについて周知広報を図った。							
事業承継・第二創業に取り組む事業者等の支援		事業承継セミナーの開催等を通じて、57人を支援した。(国の地方創生推進交付金及び企業版ふるさと納税制度を活用)							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、基準値を下回り、あまり達成されていない。これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中小企業者向けに創設された県新型コロナウイルス関連緊急経営対策資金(3年間無利子)に利用が集中し、産業振興資金等の利用が減少したものと考えている。 R2年度の取組としては、創業支援資金において、従来の一般保証に加え創業関連保証(国の特別保証)を利用可能とした。また、金融機関個別訪問や広報リーフレットの配布等により、本市の融資制度による経営改善の支援について周知広報を図った。	R3年度は、より円滑な資金調達を支援するため、創業支援資金等の保証料補助拡大の対象となるセミナー等を追加する。 今後も引き続き、事業者が利用しやすい制度の設計や他課及び関係団体と連携して周知広報に努めるとともに、事業承継セミナーを開催するなど、事業者等に対する支援に取り組む。 【主なR3年度休止事業】 ・ベンチャー型事業承継推進事業	KPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中小企業者向けに創設された県新型コロナウイルス関連緊急経営対策資金に利用が集中したこともあり、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、民間金融機関等からの融資を受けにくい中小企業者がより利用しやすい制度への改善や制度の周知に努めるとともに、県や経済団体、地域金融機関等との連携を図りながら、地域全体での対応を図るべきである。

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人

H28実績	
実績値 (R2)	対目標値
27,279 *	-58.2%
274,569 *	-75.6%

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

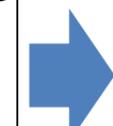
<概要>	
(1) 評価 (KPI) a: 十分に達成されている b: 概ね達成されている c: あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)	3	③人材の確保 首都圏等からのクリエイティブ人材の移住者数	-	42	人 (6年間)	31	73.8%	b	20
主な取組内容									
首都圏等のクリエイティブ人材の誘致		UIJターンイベントやお試し移住の実施、移住交通費や事業所改修費を対象とした補助金の交付等により、首都圏等に集中しているクリエイティブ人材の誘致に取り組んだ。 UIJターンイベント参加者:64人、お試し移住参加者:8人、補助金交付対象者:6人、移住実績:11人							
UIJターン人材の確保支援		UIJターンによる就業・起業者の創出を図るため、東京23区の在住者または23区への通勤者が、市内に移住し、中小企業等に就業または起業した場合に、移住支援金を支給した。(8件)							
産学官連携による若者の地元定着の推進		若者の地元定着等に向けた取組の推進について、産学官が連携して検討を行う「かごしまで働きたい若者応援会議」を開催(年1回)し、出された意見を踏まえた具体的な取組の実施について、関係機関と協議を行った。(国の地方創生推進交付金を活用) また、地元の企業等が一堂に会し、中学生をはじめとする若い世代への企業等の魅力発信や情報提供を行うイベントを関係機関と連携して開催した。(参加者610人)							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、概ね達成されている。 H28年度7人、H29年度4人、H30年度6人、R元年度3人で、単年度あたりの目標値(7人)を下回っていたが、R2年度は11名と目標値を上回った。これは、 <u>新型コロナウイルス感染症の流行により地方移住の機運が高まったことによる影響とも考えられる。</u> R2年度の取組状況としては、専用WEBサイトを作成し移住クリエイターのインタビュー記事を掲載する等、戦略的な情報発信を行うとともに、UIJターンイベントやお試し移住の実施、移住補助金の交付などにおいて、本市独自の取組を行い、移住推進室とも連携を図りながら、クリエイティブ人材の誘致に取り組んだ。 また、東京23区の在住者または23区への通勤者が、市内に移住し、中小企業等に就業または起業した場合に、移住支援金を支給したほか、産学官連携による会議を開催し、若者の地元定着等に向けた取組の推進を図った。	引き続き、移住推進室と連携し、戦略的な情報発信を行い、クリエイティブ人材の誘致に取り組む。 また、東京23区の在住者または23区への通勤者が、市内に移住し、中小企業等に就業・起業またはテレワークを行っている場合に、移住支援金を支給するほか、中学生をはじめとする若い世代に地元企業等の魅力発信や情報提供を行うイベントを関係機関と連携して開催する。 【主なR3年度休止事業】 ・鹿児島・渋谷クリエイティブシンポジウム開催事業



検証会議の意見
KPIについては、人材の確保に向けて、概ね達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、クリエイティブ人材が活動しやすい環境整備を進めるとともに、ターゲットに情報が届くよう、引き続き、情報発信の工夫・改善を図るほか、移住に至らなかった理由についても分析を行った上で、より効果的な施策となるよう努めていただきたい。

A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279 *	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569 *	-75.6%

H28実績

H28実績

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)	4	① 商業・サービス業の活性化	—	27	人 (6年間)	19	70.4%	b	8
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							c
商店街等の活性化に対する支援		商店街の活性化に向けた主な支援として、イベント開催等の事業に取り組んだ24の商店街に対して助成を行った。また、セミナーと店舗指導による研修会を開催し、6店舗が参加した。							
リノベーションなど空き店舗等の再生を担う人材の育成		空き店舗等の有効活用や街の賑わい創出のため、参加者が選定した空き店舗等を活用する事業計画の作成を支援する街なかリノベーション実践セミナーを開催した(参加者20人)。そのほか、H30年度から開始している創業者と空き店舗のマッチングにより空き店舗の解消を図る創業者テナントマッチング事業について、活用の促進を図った(補助実績1件)。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
<p>KPIの進捗については、概ね達成されている。 街なかリノベーション実践セミナーの受講者や創業者テナントマッチング事業の活用者の開業により空き店舗の再生がなされ、19人の新規就業となっている。 R2年度の取組状況としては、商業・サービス業のさらなる活性化を図るため、商店街等に対して各種支援を行ったほか、空き店舗等の再生を担う人材を育成するため、リノベーション実践セミナーを開催した。そのほか、H30年度から開始している創業者と空き店舗のマッチングにより空き店舗の解消を図る創業者テナントマッチング事業の活用の促進を図った。</p>	<p>引き続き、商店街等への各種支援や街なかリノベーション推進事業、創業者テナントマッチング事業により、商業・サービス業の活性化や空き店舗等の再生を担う人材の育成、空き店舗の解消を図る。 【主なR3年度休止事業】 ・街なかリノベーション推進事業 ・創業者テナントマッチング事業</p>	<p>KPIについては、商業・サービス業の活性化に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、商店街等の活性化に向け、助成制度等の周知に努めるとともに、経済団体や地域金融機関等と連携を進めるほか、空き店舗を新規創業やまちづくりに有効に生かせるよう、取組の工夫・改善を図りながら、空家になりそうな店舗へのサポートも検討していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279 *	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569 *	-75.6%

H28実績

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a: 十分に達成されている b: 概ね達成されている c: あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
--	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)	5	本市の事業活用による商談成約件数	(H26) 11	357	件 (7年間)	285	79.8%	a	275
②ものづくり産業の活性化									
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R2)								
国内外での展示会や商談会等への出展等、販路拡大への支援	中小企業者等への販路拡大支援として、国内外で開催される展示会等に出展する経費等の助成や海外販路拡大への取組段階に応じた関係機関と連携した支援を30社に対し行い、10件の商談成約につながった。(国の地方創生推進交付金を活用)								
人材や後継者の育成のための支援	主な支援策として、専門員(アドバイザー)を1社に2回派遣し、経営力や販路拡大などに関する指導を行うことにより、人材育成につながる取組が図られた。								

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、十分に達成されている。 R2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、渡航・移動制限、展示会等の開催数の減少などの影響があったが、引き続き出展経費等への助成や企業の海外販路拡大への取組段階に応じた支援を関係機関と連携して行った。 また、各種アドバイザーを派遣し、経営力や販路拡大などに関する指導等を行った。	新たに、国内におけるオンライン展示会の出展経費についても補助対象とし、国内外での展示会出展を検討している企業の後押しを行う。 【主なR3年度休止事業】 ・戦略的海外販路拡大支援事業 ・輸出チャレンジ支援事業



検証会議の意見
KPIについては、ものづくり産業の活性化に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、EC(電子商取引)市場規模の拡大を踏まえ、専門アドバイザー等の活用も検討するとともに、同感染症収束後も見据え、展示会・商談会の新たな開催方法への対応を図っていただきたい。

A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人

H28実績	
実績値 (R2)	対目標値
27,279 *	-58.2%
274,569 *	-75.6%

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<概要>	
(1) 評価 (KPI)	(2) 検証会議の意見
a: 十分に達成されている b: 概ね達成されている c: あまり達成されていない	A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)	6	本市支援による新規就農者数	(H26) 5	41	人 (7年間)	53	129.3%	a	45
③ 農林水産業の活性化									
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R2)								
本市農産物等を活用した6次産業化の推進	6次産業化研修会(2回:参加者50名)の開催や、新商品開発への支援などを通じ、新たに6つの加工品が商品化された。その後、イベント等で商品紹介を行うなど販売促進にも取り組み、生産者の所得の向上が図られた。								
新規就農者の育成	就農相談や基礎研修などの就農支援のほか、農業次世代人材投資資金の交付や施設整備の助成などにより、新規就農者が8人(新規参入者1人と後継者7人)確保された。また、コロナ禍で市場出荷が厳しい中、農協と連携して、共同販売への加入や直売所への販売強化に努め、新規就農者の販路開拓が図られた。								

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、目標値を上回り、十分に達成されている。(R2年度末の改訂により、目標値を41人から63人へ上方修正) R2年度の取組状況としては、昨年度に引き続き新商品開発等への支援などを通じ、新たに6つの加工品が商品化されたほか、就農相談や技術習得に対する支援、農業次世代人材投資資金の交付などにより、青年就農者の経営安定に努めた。 また、コロナ禍で市場出荷が厳しい中、農協と連携して、共同販売への加入や直売所への販売強化に努め、新規就農者の販路開拓が図られた。	加工や販売などの専門家の助言や、県内外の事例を紹介するなど、6次産業化に取り組む意欲がある生産者を支援し、6次産業化を促進する。 また、本市の農林水産物等を生産者団体等と連携してPRすることで、需要を喚起し、販路の拡大を行う。 新規就農者の定着に向け、引き続き関係機関と連携し、経営や農業技術の助言・指導を行う。 スマート農業については、先進的な活用事例を情報提供するほか、国などの事業の活用により生産環境の整備に努める。



検証会議の意見
KPIについては、農林水産業の活性化に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、スマート農業の導入を進め、ICTを利用した効果的・効率的な農業に向けた生産環境の整備に取り組むほか、農地を確保したい新規就農希望者と高齢化や後継者不在などで営農が困難になった方とのマッチングにも意を用いていただきたい。

A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279 *	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569 *	-75.6%

H28実績

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(3)若い世代をはじめとする雇用機会の拡大	7	①創業・第二創業への支援 本市支援による新規創業者数	(H26) 36	252	者 (7年間)	208	82.5%	a	175
主な取組内容									
インキュベーション施設の機能強化・活用		ソフトプラザかごしまリニューアル整備・運営基本計画に基づき、H30年度に同施設をクリエイティブ産業創出拠点施設「mark MEIZAN」として整備し、クリエイティブ人材の育成、コミュニティ形成、情報発信に取り組んだ。							
新規創業者等の育成支援		ソーホーかごしま等へのインキュベーションマネージャーの配置によるワンストップ相談窓口の設置、創業スキル関連講座の開催などを通じて406人を支援し、33者が新規創業した。また、創業支援者に対する追跡調査を行い、創業状況や創業後の課題など、創業支援者の現状把握を行った。(企業版ふるさと納税制度を活用)							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、十分に達成されている。 R2年度の取組状況は、創業スキル関連講座の開催等を通じて新規創業への支援を着実に推進するとともに、クリエイティブ産業創出拠点施設「mark MEIZAN」の企画運営を行った。 また、創業支援者に対し、追跡調査を行い、フォロー体制の構築に向けた現状把握を行った。	ソーホーかごしまやmark MEIZANにおいて、セミナー等を実施するとともに、創業後における追跡調査や支援体制の構築、大学と連携した事業の実施などにより、新規創業者等に対する支援に努める。



検証会議の意見
KPIについては、創業・第二創業への支援に向けて、十分に達成されている。 引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、インキュベーション施設利用者の動向やニーズを把握するとともに、未創業者も含めて創業支援者への追跡調査を行った上で、創業前・創業後の支援策の充実を図るほか、若い世代や外部専門家の積極的な参画について検討いただきたい。

A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人

H28実績	
実績値 (R2)	対目標値
27,279 *	-58.2%
274,569 *	-75.6%

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<概要>	
(1) 評価 (KPI)	(2) 検証会議の意見
a: 十分に達成されている b: 概ね達成されている c: あまり達成されていない	A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(3)若い世代をはじめとする雇用機会の拡大	8	②企業立地の推進 企業立地件数	(H26) 7	49	件 (7年間)	42	85.7%	a	34
主な取組内容									
企業訪問等による立地環境のPR		雇用の創出と地域経済の活性化を図るため、企業訪問活動等を行うとともに、首都圏の展示会出展、新聞広告等により、本市の企業立地補助制度等の立地環境のPRを行い、8件(計画従業員数455人)の立地協定につなげた。 また、連携中枢都市圏構成市関係課の企業立地担当者会議の開催、企業立地HPの相互リンク、補助金の要件である新規雇用者数に圏域市民を算入するなどの取組を引き続き行った。							
市内外企業の立地等に対する支援		立地した企業に対して新規雇用や設備投資等への助成を12件行うとともに、職場見学会を開催するなど、立地企業の雇用確保への支援を行った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、十分に達成されている。 R2年度の取組状況としては、首都圏における展示会へのブース出展や企業立地促進補助制度のPR、市外企業に対するオンライン面談の活用、市内企業に対する訪問など、企業立地を推進する活動を積極的に行った。 また、連携中枢都市圏構成市で連携したPRや、立地企業の雇用確保を支援するためのソフトウェア業職場見学会などを実施した。	引き続き、積極的な企業訪問を行い、補助制度や、都市の魅力など本市の強みをPRし、企業立地のさらなる推進に取り組むとともに、フォロー活動における情報交換等を通じて立地企業の状況把握や雇用確保への支援を行う。また、連携中枢都市圏の構成市及び県との連携を図りながら企業立地を促進する。



検証会議の意見
KPIについては、企業立地の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、連携中枢都市圏の各自治体との連携強化を図るとともに、産業クラスターやサプライチェーンを形成する業態の企業や、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、テレワークを前提とした企業の誘致について検討していただきたい。

A

積極戦略 1 しごとで活力を「つくる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 つくる

本市が直面している転出超過を解消していく上では、若い世代を中心に東京都や福岡県などへ向かう流れに歯止めをかけることが重要であり、そのためには、市域内に魅力的で安定した雇用の場を確保していかなければなりません。
 地域産業の競争力強化や新産業の創出、企業立地の推進などに取り組むことにより、新たな雇用の場が創出されるとともに、若い世代や、潜在的な労働力である女性や高齢者などの活躍をあわせて推進することにより、地域における雇用機会の拡大にもつながります。
 そのような安定した雇用を生み出し、地域の活力を維持するまちの創造を目指し、しごとで活力を「つくる」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
事業所数	(H26) 28,317	30,100	事業所	27,279 *	-58.2%
従業者数	(H26) 278,415	283,500	人	274,569 *	-75.6%

H28実績

〔基本的方向〕

生産性の向上や商品・サービス等の高付加価値化、国内外への販路拡大を図るため、新事業・新産業の創出や事業経営への支援、人材の確保などに取り組むほか、商業・サービス業、ものづくり産業、農林水産業など、それぞれの産業の活性化を図り、地域産業の競争力強化を進めます。
 また、若い世代の雇用拡大が期待される創業・第二創業への支援、企業立地の推進や、女性や高齢者等の活躍促進などに取り組み、若い世代をはじめとする雇用機会の拡大に努めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

H28実績

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(3)若い世代をはじめとする雇用機会の拡大	9	本市の助成金を活用して雇用される人数	(H26) 426	2,882	人 (7年間)	2,331	80.9%	a	2,042
③若者、女性、高齢者等の活躍促進									
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R2)								
若者の雇用促進、就業を中断していた女性や高齢者の再就職等の支援	トライアル雇用支援金の支給による若年者等の雇用促進(雇用された人数16人)のほか、シルバー人材センターへの補助を通じた高齢者の就業機会の拡大(会員数4,229人)を図った。 また、経営者・管理職向けのセミナー(参加者60人)及び女性管理職を育成、応援するセミナー(参加者39人)の実施や女性を対象とした職場見学会(実施回数8回、参加者55人)、子育て支援施設での就活応援講座(実施回数5回、参加者23人)などを実施した。(国の地方創生推進交付金及び企業版ふるさと納税制度を活用)								
障害者や高齢者、ひとり親家庭の母等を雇用した事業主に対する奨励金の支給	市内に在住する障害者、高齢者、母子家庭の母など就職が特に困難な者を、継続して雇用する労働者として雇用した市内に事業所を有する中小企業の事業主に対して就職困難者等雇用奨励金を支給し、雇用促進が図られた(雇用された人数273人)。								

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、十分に達成されている。 R2年度の取組状況としては、経営者・管理職向けのセミナーを実施するなど、女性活躍の意義についての理解を深め、その取組を促進した。 また、シルバー人材センターの会員数が過去最高を更新するなど、高齢者の就労機会の拡大が図られた。	引き続き、助成金の周知広報に努めるとともに、労働局等の関係機関とも連携を図りながら、若い世代をはじめ、女性や高齢者等の就労促進に努める。 また、経営者・管理職向けのセミナーや女性管理職を育成、応援するセミナーを継続的に実施し、女性の活躍促進に取り組むとともに、関係部署とも連携を図りながら、女性が働きやすい環境整備に努める。 【主なR3年度休止事業】 ・働きたい女性の就活応援事業	KPIについては、若者、女性、高齢者等の活躍促進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、就労者やセミナー受講者に対するフォローアップ調査を行った上で、支援策の充実を図るとともに、働きやすい環境づくりに向けた取組も進めていただきたい。

基本目標

2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」 検証シート総括表 (R2年度)

<概要>	
(1) 評価 (数値目標・KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔数値目標〕

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)	根拠統計等
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	26,390 *	71.3%	a	A	(国)人口動態統計

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	H27~R元実績		R元参考 (実績値)	R元参考 (評価)	根拠統計等		
						実績値 (R2)	対目標値					
(1) 若い世代の経済的安定												
①若者の就業支援	10	トライアル雇用支援金を活用して雇用される若年者等の人数	(H26) 134	888	人 (7年間)	482	54.3%	c	B	467	c	(市)事業実績
②貧困の世代間連鎖の解消	11	就労支援した若者等の就職者数	—	488	人 (7年間)	358	73.4%	b	A	269	b	(市)事業実績
(2) 結婚の希望の実現												
①次世代を担う若者への意識啓発	12	ライフデザインセミナー参加者数	—	2,400	人 (6年間)	2,924	121.8%	a	A	2,269	a	(市)事業実績
②結婚への支援	13	婚活事業への参加者の満足度	—	90	%	86.1	95.7%	a	A	82.1	a	(市)アンケート
(3)妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	14	妊娠出産について満足している者の割合	(H27) 84.1	85	%	88.5	104.1%	a	A	88.3	a	(市)アンケート
(4) 子育て支援の充実												
①子育て支援施設の整備・充実	15	保育所等の待機児童数	(H26) 47	0	人	216	-359.6%	c	A	209	c	(市)事業実績
		保育所等への入所率	(R元) 96.9	100	%	96.7	96.9%			96.9		(市)事業実績
②放課後における児童の健全育成	16	児童クラブの待機児童数	(H27) 414	0	人	106	74.4%	b	A	68	c	(市)事業実績
③子育て世帯への経済的支援	17	出生数に占める第3子以降の割合	(H25) 19	20.4	%	19.7 *	50.0%	b	A	18.2 *	c	(国)人口動態統計
(5)ワーク・ライフ・バランスの普及促進	18	男女共同参画センターにおけるワーク・ライフ・バランスをテーマとした講演会・講座の受講者数	(H26) 472	2,100	人 (7年間)	2,057	98.0%	a	A	1,849	a	(市)事業実績
		時間外勤務の削減に関する取組を実施している企業の割合	(H30) 88.8	94	%	—	—			—		(市)アンケート

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

数値目標及び主な施策やKPIの進捗を踏まえた全体の評価

結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>数値目標「出生数」については、ほぼ目標値に達している。 若い世代の経済的安定に向けた貧困の世代間連鎖の解消にかかる取組は概ね達成されているが、一方で若者の就業支援にかかるKPIについては、あまり達成されていない。 また、結婚の希望の実現に向けた支援、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援やワーク・ライフ・バランスの普及促進に向けた取組は十分に達成されているほか、子育て支援の充実を図るための放課後における児童の健全育成や子育て世帯への経済的支援は概ね達成されているが、一方で子育て支援施設の整備・充実にかかるKPIについては、あまり達成されていない。</p>	<p>若者の就業支援については、国のトライアル雇用助成金の活用状況や、社会経済情勢の変化等を踏まえながら市のトライアル雇用支援金の再開を検討するほか、待機児童の解消については、早期の解消に向けて、受け皿や潜在保育士の確保等の各種施策に取り組むなど、引き続き、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開する。</p>



検証会議の意見	
<p>数値目標については、結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」という基本目標に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、特に「若者の就業支援」や「子育て支援施設の整備・充実」において、子育て支援の充実を図る取組を着実に進めながら、早期改善に向けた取組の検討も行っていただきたい。</p>	A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 かなえる

H27～R元実績

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	26,390 *	71.3%

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(1) 若い世代の経済的安定	10								
① 若者の就業支援		トライアル雇用支援金を活用して雇用される若年者等の人数	(H26) 134	888	人 (7年間)	482	54.3%	C	467
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							C
若者の就職・起業、人材育成の促進		若者の職場定着について、関係機関と連携を図りながら状況把握に努め、トライアル雇用支援金の支給(雇用された若年者等15人)や高校生ステップアップセミナーの開催(参加者401人)などにより若年者の就労促進や勤労観・職業観の醸成を図ったほか、ものづくり分野の事業主への職業訓練に要する経費の助成(17人分)などを通じて、人材育成を支援した。 また、若者の地元就職等に向けた取組の推進について、産学官が連携して検討を行う「かごしまで働きたい若者応援会議」を開催(年1回)したほか、未来起業家応援セミナーを開催(参加者49人)し、学生等の起業マインドの醸成を図った。(国の地方創生推進交付金を活用)							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を下回り、あまり達成されていない。これは、R元年度の国のトライアル雇用助成金の対象労働者の要件変更により、国の助成金の決定件数が減少しているためと考えられる。 R2年度の取組状況としては、トライアル雇用終了後も継続雇用している事業主に対して支援金の支給を行ったほか、高校生を対象とした就職セミナー、学生等を対象とした起業セミナーの開催など、若者の就業支援、起業支援に着実に取り組んでいる。	R3年度は、新型コロナウイルス感染症による厳しい財政状況を鑑み、一部セミナーを休止するが、引き続き、若者の就業支援、起業支援に取り組む。トライアル雇用支援金については、R3年度はR2年度中に国の助成金の支給決定を受けたものを除き休止となっていることから、今後の事業再開については、国のトライアル雇用助成金の活用状況や、社会経済情勢の変化等を踏まえながら検討してまいりたい。 また、若者の職場定着については、関係機関と連携を図りながら状況把握に努め、職場定着に関する国の助成金の広報など、連携した取組を進めていくとともに、高校生や新就職者を対象に開催するセミナー等により、勤労観・職業観の醸成を図る。	KPIについては、国の助成金の決定件数が減少していることもあり、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、トライアル雇用から常用雇用への移行状況を分析するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響による雇用環境の変化を踏まえた就労支援の在り方を検討するほか、セミナー等を通じた若い世代の仕事理解・自己理解の推進に努めるべきである。 また、KPIについては、第2期総合戦略において、施策全体の効果を捉える指標を検討すべきである。

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	26,390 *	71.3%

H27~R元実績

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

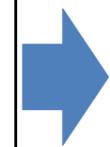
＜摘要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(1) 若い世代の経済的安定	11	② 貧困の世代間連鎖の解消 就労支援した若者等の就職者数	-	488	人 (7年間)	358	73.4%	b	269
主な取組内容									
ひとり親家庭や生活困窮世帯の若者等の就労活動と子どもの学習の支援		生活困窮者等への就労支援を引き続き実施し、「生活・就労支援センターかごしま」内の生活自立支援センターとハローワーク窓口の連携により、若者等への就労支援をワンストップで行った。学習支援については、生活困窮世帯等の小学5・6年生及び中学生に、学力の向上や学習習慣の定着を目的とした学習会を、大学生や教員OB等と協力し、5月から2月まで3カ所まで延べ135回実施した。(R2年度は新型コロナウイルス感染症対策により延べ6回実施見送り) また、ひとり親家庭の就業支援として実施する講習会は、ニーズの高い医療事務講座に加え、新たに調剤薬局事務講座を実施(受講者31人)したほか、R2年度には、子どもの生活に関するアンケート調査の結果等を踏まえ、子ども・子育て支援事業計画のリーディングプロジェクトとして「鹿児島市子どもの未来応援プラン(子どもの貧困対策推進計画)」を策定し、全庁的に子どもの貧困対策の推進を図る体制を構築した。							b

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、概ね達成されている。 「生活・就労支援センターかごしま」内の生活自立支援センターとハローワーク窓口の連携により、若者等への就労支援をワンストップで行ったほか、生活困窮世帯・ひとり親家庭等の小学5・6年生及び中学生への学習支援(学習会)を、大学生や教員OB等と協力して実施した。母子家庭等自立支援事業では、医療事務講座に加え新たに調剤薬局事務講座を実施したほか、引き続きひとり親家庭等総合相談会で就業相談等を行い、就業支援の充実を図った。 また、R2年度には、子どもの生活に関するアンケート調査の結果等を踏まえ、子ども・子育て支援事業計画のリーディングプロジェクトとして「鹿児島市子どもの未来応援プラン(子どもの貧困対策推進計画)」を策定し、全庁的に子どもの貧困対策の推進を図る体制を構築した。	「生活・就労支援センターかごしま」によるワンストップでの支援体制を充実するとともに、引き続き、関連施策の広報・周知を進め、関係機関と連携し、取組の推進を図っていく。 母子家庭等自立支援事業で実施する講習会について、ひとり親家庭や企業においてニーズの高い資格などを把握し、講座内容の検討を行う。 また、子どもの未来応援プランに基づいた、子どもの貧困対策の推進を図っていく。



検証会議の意見
KPIについては、貧困の世代間連鎖の解消に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、支援を行った生活困窮者等の就労状況について追跡調査を行うとともに、トライアル雇用支援金制度など関係課・機関の支援との連携を図るほか、こども食堂とのさらなる協働も検討していただきたい。 A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	26,390 *	71.3%

H27~R元実績

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜摘要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(2) 結婚の希望の実現	12	①次世代を担う若者への意識啓発	—	2,400	人 (6年間)	2,924	121.8%	a	2,269
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							a
結婚、妊娠、出産、子育てに対する気運の醸成		次世代を担う若者への意識啓発として、短大生・大学生を対象にライフデザインセミナー(シンポジウム2回・セミナー5回)を開催し、655人の参加があった。セミナー参加前後にアンケートを実施したところ、参加者の68%が、結婚に対する不安や心配な気持ちが軽減されたと回答した。学生だけでなく、企業の若手社員を対象に、より幅広い若年層に向けたセミナーを実施した。そのほか、学生が結婚や家庭を持つことの意義について理解を深めることができるよう、学生による挙式プロデュースを実施した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を上回り、十分に達成されている。(R2年度末の改訂により、目標値を2,400人から4,100人へ上方修正) R2年度の取組状況としては、ライフデザインセミナー事業及び挙式プロデュース事業を、大学・高校・企業等と連携して実施した。また、両事業の前後に、アンケートを実施し、参加者の意識変化の把握を行った。	R3年度から新たに高校生を対象としたライフデザインセミナーを実施するなど、幅広い若年層への意識啓発に努める工夫をし、結婚、妊娠、出産、子育てに対する気運の醸成に取り組んでいく。	KPIについては、次世代を担う若者への意識啓発に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、事業実施前後のアンケート結果を踏まえてセミナー等の内容の改善を図るほか、希望する人が気軽に参加できるよう、対象者の拡充を検討していただきたい。

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	26,390 *	71.3%

H27～R元実績

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(2) 結婚の希望の実現	13	② 結婚への支援 婚活事業への参加者の満足度	-	90	%	86.1	95.7%	a	82.1
主な取組内容									
出会いの場の提供、民間の婚活事業への支援の検討		以下の各種イベントを開催し、出会いの場を提供した。 出会い・ふれあいレクリエーション交流会 (参加者数 168人、満足度 92.7% カップル数 21組 (R元 24組)) 出会いサポートイベント (参加者数 172人、満足度 79.6% カップル数 23組 (R元 23組)) 趣味で出会えるイベント (参加者数 59人、満足度 86.0% カップル数 10組)							
新婚世帯等の市営住宅への入居支援		新婚・子育て世帯向け市営住宅支援事業を実施し、新婚世帯等の市営住宅への入居を支援した。 (募集戸数 137戸、応募件数 111件、入居戸数 38戸)							
結婚相談所における結婚のあつ旋		結婚相談所を運営し、結婚希望者に出会いの場を提供するとともに、婚活応援セミナー等を実施した。 (登録者数: R元 633人→R2 463人、お見合い者数: R元 846人→R2 466人、婚約成立数: R元 15組→R2 12組)							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性 (考え方)
KPIの進捗については、十分に達成されている。 R2年度の取組状況としては、出会い・ふれあいレクリエーション交流会や、出会いサポートイベント(謎解き婚活イベント)に加え、新たに趣味で出会えるイベント(アウトドア・料理、旅行)を開催し、多くのカップルが成立したほか、結婚相談所の運営を通じて出会いの場を提供するとともに、婚活応援セミナーや、新たにマリーサポートカフェ(少人数制婚活イベント)を実施した。 また、新婚世帯等向けに、市営住宅の優先入居を実施した。	R3年度は、新型コロナウイルス感染症による厳しい財政状況を鑑み、一部イベントを休止するが、今後については、同感染症等の状況を踏まえながら、より効果的な方法等を含め、各種イベントの開催など、出会いの場の提供に積極的に取り組む。結婚相談所については、登録者数や婚約成立数が減少していることから、さらなる周知広報やサービス向上に努めるなど、利用促進を図り、結婚を希望する方の婚活をサポートする。 また、今後も引き続き、新婚世帯等の市営住宅への入居支援に取り組む。 【主なR3年度休止事業】 ・出会い・ふれあい企業対抗運動会開催事業



検証会議の意見
KPIについては、結婚への支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、結婚相談所によるあつ旋や婚活イベントの参加者数が減少していることから、同感染症収束後も見据え、オンラインの活用等により利用・参加しやすい実施方法を検討していただきたい。

A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	26,390 *	71.3%

H27～R元実績

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(3) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援	14	妊娠出産について満足している者の割合	(H27) 84.1	85	%	88.5	104.1%	a	88.3
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							a
子育て世代包括支援センターを中心とした継続的な支援		子育て世代包括支援センターにおいて、母子保健支援員の増員(5名→7名)や発達支援専門員の新設(7名)など、相談体制の充実を図り、妊娠・出産・子育てに関する相談支援、情報提供などの取組を進めた。また、産婦支援小児科連携事業(受診:891件)に取り組んだほか、産後ケアの推進を図り、279人が延971日(宿泊型:99人延725日、日帰り型:173人延227日、訪問型:7人延19日)利用した。							
不妊治療に対する助成		特定不妊治療については、R3年1月1日治療終了分から所得制限の撤廃、1回当たりの助成上限額の引き上げ、対象に事実婚を加えるなど、助成の拡充を行い、999件(R元 866件)助成した。また、不育症治療への費用を33件(R元 12件)助成した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を上回り、十分に達成されている。 子育て世代包括支援センターの体制整備後も、母子保健支援員や発達支援専門員の配置を行うなど、センターとしての機能の強化を図ってきている。 また、妊産婦のメンタル面のケアとして、R2年度に新たに開始した産婦支援小児科連携事業など、母子保健に関する他の事業と併せて、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に取り組んでいる。	子育て世代包括支援センターの機能をさらに発揮し、関係機関と連携しながら、産後早い時期での産婦健康診査やその後の産婦支援小児科連携事業を実施するなどして、地域での切れ目のない支援の充実に取り組む。 このほか妊娠期からのハイリスク家庭の把握及び支援充実、訪問指導時の問診票等使用によるハイリスク家庭の把握に努める。また、不妊専門相談センターによるさらなる相談支援の充実を図る。	KPIについては、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、妊娠出産について「満足していない」と回答した理由を分析した上で、関係機関と連携しながら、引き続き、切れ目のない支援の拡充を推進していただきたい。 また、KPIについては、第2期総合戦略において、客観指標の設定を検討していただきたい。 A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	26,390 *	71.3%

H27~R元実績

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

<概要>	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(4) 子育て支援の充実	15	保育所等の待機児童数	(H26) 47	0	人	216	-359.6%	c	209
① 子育て支援施設の整備・充実		保育所等への入所率	(R元) 96.9	100	%	96.7	96.7%		96.9
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R2)								c
親子つどいの広場などの整備・活用	親子つどいの広場や、すこやか子育て交流館等において、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数は前年の約6割に大幅に減少したが、前年度を上回る8,761件の各種相談を受けたほか、よりきめ細やかな支援を行うため、職員を増員するなど、子育て支援の充実に努めた。								
認可保育所等の整備促進	第二期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育所及び幼保連携型認定こども園の定員増等により、定員200人分の受け皿確保を行った。								
認可外保育施設に対する助成	認可外保育施設に入所している児童の保育環境の向上や、児童の健全な育成を図るため、認可外保育施設18施設に対し、運営費等の助成を行った。また、認可外保育施設の利用希望者に対しては、近隣施設の紹介や、認可外保育施設指導監督基準に適合しているか等の情報提供を行った。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIについては、保育需要の高まりや保育士不足等から、保育所等の待機児童数がR元年度209人より微増し、保育所等への入所率は元年度96.9%より減少しており、あまり達成されていない。 (R元年度末改訂により、KPI「保育所等への入所率」を追加) R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、親子つどいの広場などの利用者数は前年の約6割に大幅に減少したが、前年度を上回る8,761件の各種相談に対応したほか、元年度に策定した第二期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画に基づき、認可保育所等において定員200人分の受け皿確保を行った。 また、保育士・保育所支援センターにおいては、マッチング数42件に対して採用決定者35人、うち保育所等に勤務していない人は23人で、潜在保育士の掘り起こしに一定の成果を挙げている。 さらに、保育士等の業務負担軽減を図るためのICT導入補助や、保育士等のための宿舎借上げ経費の助成を行ったほか、職員の経験年数や技能等を踏まえ処遇改善に取り組んだ。	子育て支援施設の整備・充実については、第二期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画に基づき、待機児童を解消するため、保育所及び幼保連携型認定こども園の定員増等による受け皿確保を行う。 また、保育士・保育所支援センターによる潜在保育士の確保に加え、保育士確保に係る意見交換会や保育士を目指す学生向けのイベントを行うなど、早期の待機児童解消に向けて積極的に取組を進めていくこととし、保育士等の処遇改善についても、国の通知等に基づき取り組む。 地域の子育て支援機能の充実については、引き続き、親子つどいの広場等におけるきめ細やかな支援体制を維持するとともに、子育て拠点支援施設職員のスキルアップや施設間の連携を図っていく。 【主なR3年度休止事業】 ・子育て支援施設職員スキルアップ研修事業	KPIについては、保育需要の高まりや保育士不足等から、あまり達成されていない。取組の方向性は妥当であることから、引き続き、保育需要等の状況を踏まえながら、取組の推進を図るべきである。 なお、施策の推進にあたっては、受け皿となる保育所の拡充を図るとともに、保育士の確保に向けて、潜在保育士の掘り起こしや保育士を目指す学生に対する支援のほか、保育士の負担軽減、処遇改善等を一層推進していただきたい。

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。
引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。
そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	26,390 *	71.3%

H27～R元実績

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(4) 子育て支援の充実	16	② 放課後における児童の健全育成	(H27) 414	0	人	106	74.4%	b	68
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							c
児童クラブの計画的な設置	待機児童の解消に向け、児童クラブの施設整備を行い、5か所を開設した(R元 163か所→R2 168か所)ほか、引き続き民間の児童クラブに補助を行った。 また、支援員及び補助員の報酬を引き上げ処遇改善を図るとともに、各クラブの募集情報を市民のひろばや市ホームページで周知したほか、市職員退職者説明会でチラシを配布し職員募集を呼びかけるなど、支援員等の確保に向けた支援を行った。								
新・郷中教育推進事業の拡充	年次計画に基づき、市内全78小学校で放課後子ども教室を開設し、合計2,002人の児童に利用された。(参考:R元年度 78教室 2,352人)								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性 (考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、概ね達成されている。 (R元年度末改訂により、基準値を171人(H26)から414人(H27)へ変更) R2年度までの取組状況としては、待機児童解消のため、計画的にクラブの整備を進めたほか、あわせて、そこで働く支援員等の確保支援及び処遇改善なども図った。 新・郷中教育推進事業では、年次計画に基づき、市内全78校で放課後子ども教室を開設した。	児童クラブについては、引き続き、就学児童数や待機児童数の見込み等から、今後の利用見込みを算出し、余裕教室の活用や専用施設の設置、民間事業者による設置など、計画的なクラブの整備に取り組む。 また、支援員等の確保支援や処遇改善に努めるほか、支援員資格取得の促進や児童育成に必要な研修の実施にも積極的に取り組む。 新・郷中教育推進事業では、各小学校区に放課後子ども教室を開設できている。今後も、充実した学習や体験・交流活動等に取り組む。	KPIについては、放課後における児童の健全育成に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、待機児童数に応じた施設の拡充を図るとともに、支援員の確保や待遇改善、支援スキルの向上に努めていただきたい。 A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生き育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	26,390 *	71.3%

H27~R元実績

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜摘要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	R1年数値		評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
						実績値 (R2)	対目標値		
(4) 子育て支援の充実	17	③ 子育て世帯への経済的支援 出生数に占める第3子以降の割合	(H25) 19	20.4	%	19.7 *	50.0%	b	18.2
主な取組内容						具体的な取組の内容 (R2)			
子ども医療費の助成対象の拡大 (小学6年生→中学3年生)		中学3年生までの子どもの保護者に対し、医療費の一部を助成した。30年10月からは、市町村民税非課税世帯の未就学児を対象に、医療機関等の窓口負担をなくす制度を導入した。【助成実績】303,729件							
多子世帯への助成		2人以上の子どもを持つ低所得者世帯及びひとり親世帯等の子どもが保育所等に入所した場合において、国・県の制度に基づく助成を行った。 保育料 (保育所・認定こども園) ・市町村民税所得割額が77,101円未満のひとり親世帯等について、第2子以降の保育料を無料にした。 ・市町村民税所得割額が57,700円未満の場合は、第1子の年齢に関わらず、第2子は2分の1、第3子以降は保育料を無料にした。 ・市町村民税所得割額が97,000円未満の場合は、満18歳未満の年長者から3人目以降の児童について、保育料を軽減した。							
就学・通学の援助、奨学資金の貸付		就学・通学の援助として、次のとおり、必要な援助・助成を行った。 ・国公立小・中学校に在籍する経済的に困窮している児童生徒の保護者に対し、学用品費や給食費等を援助 ・特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、学用品費や給食費等を援助 ・通級指導教室へ通う児童生徒を保護者が自家用車で送迎する場合の燃料代や公共交通機関を利用して付き添うための運賃を助成 ・遠距離または交通安全を理由に校区内の小中学校に公共交通機関等を利用して通学する児童生徒の保護者に対し、交通費を助成 また、奨学金及び入学一時金貸付の募集を行い、必要な貸付を行った。							
子育て世帯向けの市営住宅の整備		新築5戸、改善(リフォーム)5戸が完成し、建替(既存住宅を解体して新築)8戸に着手した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、概ね達成されている。 引き続き中学3年生までの子どもの保護者に対し、医療費の一部を助成した。 R2年度の取組状況としては、多子世帯への経済的負担軽減を図るとともに、保育所等を利用している3~5歳及び住民税非課税世帯の0~2歳の保育料の無償化を継続した。 就学・通学の援助、奨学資金の貸付により、保護者の経済的負担軽減を実施した。そのほか、子育て世帯向けの市営住宅の整備を行った。	今後も引き続き、子育て世帯の経済的負担軽減に努めるとともに、子育て世帯向けの市営住宅の整備を行う。 また、子ども医療費助成制度は、県の補助制度であり、R3年4月から、市町村民税非課税世帯は18歳まで対象を拡充し、現物給付方式(窓口負担ゼロ)としたところである。 なお、中学3年生までは、所得に関わらず現物給付方式を導入することを引き続き要望していく。



検証会議の意見
KPIについては、子育て世帯への経済的支援に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、医療費助成の現物給付方式の導入を積極的に進めていただきたい。

A

積極戦略 2 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 かなえる

少子化の流れに歯止めをかけていく上では、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を実現することで、出生率の向上につなげていくことが重要であり、そのためには、安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境を整備していかなければなりません。 引き続き、切れ目のない子育て支援施策を進めるとともに、社会全体で少子化対策に取り組む気運を醸成することにより、これまで以上に、結婚・出産・子育てをしやすい環境が整い、次代を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会が形成されます。 そのような市民それぞれが希望どおりに家庭を築くことができるまちの創造を目指し、個人の選択を尊重しつつ、若い世代が結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」ことができるよう各方面から支援する取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	出生数	(H25) 5,647	37,000	人 (7年間)	26,390 *	71.3%

H27～R元実績

〔基本的方向〕

少子化の大きな要因と言われる「未婚化・晩婚化」を解消するため、就業支援や貧困対策などにより若い世代の経済的な安定に取り組むとともに、若者への意識啓発を図りながら、結婚を希望する人たちに対して支援を行います。
 また、「子育てをするなら鹿児島市」を目指す取組を継続し、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援に努め、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、子育てに喜びを感じられる環境整備を進めるとともに、ワーク・ライフ・バランスの普及促進を図るなど、子育て世帯の様々なニーズを踏まえた施策を展開します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(5) ワーク・ライフ・バランスの普及促進	18	男女共同参画センターにおけるワーク・ライフ・バランスをテーマとした講演会・講座の受講者数	(H26) 472	2,100	人 (7年間)	2,057	98.0%	a	1,849
		時間外勤務の削減に関する取組を実施している企業の割合	(H30) 88.8	94	%	—	—		—
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							a
事業所へのワーク・ライフ・バランス推進の広報啓発		ワーク・ライフ・バランス推進への取組事例などをリーフレットや労働局と合同で開催するセミナー等で紹介し、事業所の意識啓発を図るとともに、無料でワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー(社会保険労務士)を派遣して、具体的な取組を支援した。(リーフレット発行:5,000部、セミナー参加者:155人、アドバイザー派遣:1社)(国の地方創生推進交付金を活用) また、経営者・管理職の意識改革プログラムを実施し、経営者等への意識啓発を図るとともに、仕事と生活を両立しやすい環境の整備を推進するため、H29年度に設立したイクボス推進同盟の周知広報に努め、同盟加盟数が増加した。(イクボス推進同盟加盟数 R元 73企業・団体→R2 81企業・団体)(国の地方創生推進交付金を活用)							
男女共同参画センターにおける啓発情報誌の発行や両立支援セミナーなどの開催		男女共同参画情報誌を発行(年2回各25,200部)し、市内の中小企業その他、金融機関、理・美容院、町内会等に配布したほか、女性活躍推進に関するセミナー等を開催し、男女共同参画の形成に対する市民の理解と認識を深め、ワーク・ライフ・バランスの普及促進に努めた。(国の地方創生推進交付金及び企業版ふるさと納税制度を活用) ※サンエールフェスタの講演会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、定員の50%とし、オンラインで開催した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、「男女共同参画センターにおけるワーク・ライフ・バランスをテーマとした講演会・講座の受講者数」は十分に達成されている。なお、「時間外勤務の削減に関する取組を実施している企業の割合」は、アンケートの実施が見送られたところである。 (R元年度末改訂により、KPI「時間外勤務の削減に関する取組を実施している企業の割合」を追加) R2年度の取組状況としては、引き続き、男女共同参画情報誌を配布し、ワーク・ライフ・バランスの広報啓発を図ったほか、アドバイザー派遣により具体的な取組支援を行うとともに、労働局など関係機関と連携を図りながら、働きやすい職場づくりが望まれる事業所に対してもより効果的な取組となるよう、セミナー開催や先進的な取組事例の情報発信を行った。 また、これまで、別々に開催していた、女性活躍推進セミナーとイクボス推進会議を合同開催し、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍推進の先進事例や他企業の取り組みに関する情報の共有を行ったほか、イクボス推進同盟加盟企業・団体数の増加に努め、H29年11月の同盟設立時から大幅に増加(設立時32→R2年度末81)するなど、取組の推進が図られている。	引き続き、労働局等関係機関と連携を図りながら、ワーク・ライフ・バランスの推進について、男女共同参画情報誌や労政広報紙等による周知・啓発に努めていく。 また、引き続きイクボス推進同盟の参加企業・団体の増加に努めるとともに、他事業と連携した取組を進めるなど、取組内容の充実を図っていく。 【主なR3年度休止事業】 ・ワーク・ライフ・バランスを目指す事業所応援事業 ・サンエールフェスタ開催事業



検証会議の意見
KPIについては、ワーク・ライフ・バランスの普及促進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症収束後も見据え、テレワークの導入など仕事と生活を両立しやすい環境の整備を推進するとともに、市民・企業への広報啓発を強化・継続していただきたい。 また、KPIのうち、「時間外勤務の削減に関する取組をしている企業の割合」については、継続して取得できる数値であるか再検討していただきたい。

A

積極戦略

3 まちの魅力を「みがく」

検証シート総括表 (R2年度)

<概要>	
(1) 評価(数値目標・KPI)	(2) 検証会議の意見
a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない -:評価なし	A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔数値目標〕

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)	根拠統計等
宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	207.6	-291.8%	c	B	(市)観光統計

注)※は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)	R元参考 (実績値)	R元参考 (評価)	根拠統計等
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上												
①食の都づくり	19	民間主体の新たな食のイベント数	-	6	件 (7年間)	6	100.0%	a	A	4	a	(市)事業実績
②歴史、自然等を生かした観光の振興	20	入込観光客数	(H26) 950	1,050	万人	511.4	-438.6%	c	B	1,000.7	c	(市)観光統計
③花と緑の回遊空間づくり	21	都市公園の市民一人当たり面積	(H27) 7.62	7.94	m ²	7.92	93.8%	a	A	7.87	a	(市)事業実績
④潤いのある都市景観の形成	22	景観形成に関する意見交換会等の延べ参加者数	-	200	人 (2年間)	95	47.5%	a	A	100	a	(市)事業実績
⑤“鹿児島ファン”の拡大	23	「友人・知人に鹿児島市を勧めたい」と思う市民の割合	(H30) 55.5	60.5	%	53.0	-50.0%	c	B	54.5	-	(市)事業実績
(2) まちなかのにぎわい創出												
①集客力・回遊性の向上	24	中心市街地の歩行者通行量	(H26) 16	17.1	万人	12.4	-327.3%	c	B	15.0	c	(市)事業実績
		カゴシマシティビューの乗客数	(H28) 18.7	20.6	万人	8.9	-515.8%			22.9		(市)事業実績
②新たな都市拠点の形成	25	JR鹿児島駅の乗降客数	(H24) 121.4	122.5	万人以上	98.7	-2063.6%	c	B	118.7	b	(市)事業実績
		「かんまちあ」で開催されるイベント数	-	120	件/年	142	118.3%			194		(市)事業実績

注)※は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

数値目標及び主な施策やKPIの進捗を踏まえた全体の評価

まちの魅力を「みがく」の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>数値目標「宿泊観光客数」については目標値を下回り、あまり達成されていないが、R元年は過去2番目に多い値となり目標を達成していた。R2年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大幅に減少したところである。</p> <p>鹿児島オリジナルの魅力向上に向けた施策のうち、食の都づくりや花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成については、十分に達成されている。</p> <p>一方で、“鹿児島ファン”の拡大や集客力・回遊性の向上にかかるKPIについては、同感染症によるイベントの中止や外出自粛などの影響を受け、あまり達成されていない。</p>	<p>歴史、自然等を生かした観光の振興について、新型コロナウイルス感染症の収束後の新たなトレンドを踏まえつつ、個性豊かな資源の価値向上への取組をさらに進めるほか、集客力・回遊性の向上については、まちなかめぐりの仕掛けづくりを推進するなど、引き続き“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開する。</p>



検証会議の意見
<p>数値目標については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、宿泊観光客数が大幅に減少したところであり、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、当面は、市内・県内の需要の掘り起こしなど国内の観光客に注力した施策を実施するとともに、同感染症収束後も見据えた施策についても検討すべきである。</p>

B

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 みがく

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	207.6	-291.8%

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)＊は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	19								
① 食の都づくり		民間主体の新たな食のイベント数	—	6	件 (7年間)	6	100.0%	a	4
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
食品関連事業者の育成支援		新商品開発に対する補助金や商談会に関するセミナーの開催等により、食品関連事業者の新商品開発や販路開拓等を支援した。(支援事業者数延べ149者)							
民間団体等が実施する食に関するイベントの拡充・促進		民間団体が実施する食のイベントとして3事業への助成を行った。(H28年度から合計6件) ①鹿児島クリスマスマーケット2020 (実施団体:鹿児島クリスマスマーケット実行委員会、実施時期:R2年12月5日(木)～25日(水) ※H30年度選定の新規イベント) ②食べて応援! かごしまテイクアウトキッチンinかんまちあ (実施団体:㈱日本リビング新聞社、実施時期:R3年1月17日(日)、24日(日)、31日(日)、2月11日(木・祝)、23日(火・祝) ※R2年度選定の新規イベント) ③トタバローネin桜島 (実施団体:トタバローネin桜島実行委員会、実施時期:R2年8月17日～R3年3月31日 ※R2年度選定の新規イベント) ※上記①～③のイベントについては、新型コロナウイルス感染症対策を行っただけで開催した。 ※鹿児島の食とビールを楽しむイベント開催事業については同感染症拡大の影響により中止のため助成を行わなかった。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、十分に達成されている。 R2年度の取組状況としては、食品関連事業者の育成支援について、新商品開発に対する補助金や商談会に関するセミナーの開催等により、新商品開発や販路開拓等が促進された。 また、民間団体等が実施する“食”のイベントについては、1事業が新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったものの、3事業については支援を行い“食の都”づくりや、まちなかのにぎわい創出を促進した。	新たに食品加工に取り組もうとする事業者の情報提供を行うなど、食品関連事業者の育成支援については引き続き取り組み、新商品開発等を促進していく。 食のイベントの促進については、4事業に対し、引き続き支援を行うとともに、来場者属性の把握・分析について実施団体に働きかける。 【主なR3年度休止事業】 ・フードビジネス推進事業	検証会議の意見 KPIについては、食の都づくりに向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、同感染症収束後も見据え、オンラインの活用などイベント等の新たな実施形態について検討していただきたい。 <p style="text-align: right;">A</p>

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 みがく

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	207.6	-291.8%

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 〔実績値 評価〕
(1)鹿児島オリジナルの魅力向上	20								
②歴史、自然等を生かした観光の振興		入込観光客数	(H26) 950	1,050	万人	511.4	-438.6%	C	1000.7
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
明治維新150周年事業の実施	【事業終了】 明治維新150周年事業及び大河ドラマ「西郷どん」と連携した取組に関しては、R元年度において終了した。								
大河ドラマ「西郷どん」と連携した取組の推進									
維新ふるさと館の展示更新	【事業終了】 維新ふるさと館の展示更新に関しては、H30年の明治維新150周年の際に「幕末探訪・郷中教育コーナー」を展示更新し、取組を終了した。								
鶴丸城御楼門の観光資源としての活用	「鹿児島ぶらりまち歩き」では、R2年3月に完成した御楼門を周遊するコースを設け、観光ボランティアガイドによる案内を実施した。 ※御楼門を含むコースに限っては当日受付を行っている。								
東京オリンピック・パラリンピック等の合宿誘致	新型コロナウイルス感染症の影響により、東京オリンピック・パラリンピックが延期されたため、引き続き、南アフリカラグビー協会と連絡調整を行うなど、誘致活動を継続した。								
鹿児島マラソンなどスポーツ・ツーリズムの推進	交流人口の拡大や地域経済の活性化のため、鹿児島マラソン2021の開催準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止した。								
プロスポーツチームの育成支援と競技場などの施設整備	鹿児島ユナイテッドFC・鹿児島レブナイズが行う本市の観光PR活動等に対して支援を行い、スポーツを通じた観光交流の促進を図った。 鹿児島ユナイテッドFCのチーム力強化を図るため、トレーニング施設整備に対する支援スキームを構築したほか、施設の整備に併せて喜入地域における「スポーツを生かしたまちづくり」を推進した。(企業版ふるさと納税制度を活用) サッカー等スタジアムの整備に向けて、各候補地における課題への対応や必要な周辺環境の整備等について検討、整理するとともに、県や関係団体等と意見交換を行い、認識や情報の共有を図った。								

次ページに続く

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 実績値 評価
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	20	入込観光客数	(H26) 950	1,050	万人	511.4	-438.6%	C	1000.7
② 歴史、自然等を生かした観光の振興									
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
グリーン・ツーリズムの推進	農家民宿開業の支援やグリーン・ツーリズム活動団体等の登録・助成などの取組のほか、お茶の里などの農産物直売所を核とするグリーン・ツーリズム施設の運営や、グリーンファームにおける各種体験プログラム・イベントの実施等により、観光客等の都市部住民と農村地域との交流促進を図った。 (活動組織等及びグリーンファームにおける農業体験などの延べ体験者数 H30年度 約72,300人→R2年度 約47,600人)								
平川動物公園の環境整備	新型コロナウイルス感染症の影響で一時休園していた時期もあったが、入園者数増を図るため、人数制限を行いながら「夜の平川動物公園」や「巣箱づくり教室」、「動物の鳴き声クイズ大会」などのイベントを実施するとともに、新型園内バスの運行、新コアラ館の供用開始などを行った。 また、QRコードを用い多言語に対応した「KX鹿児島体験ムービー」を活用し、動物の生態などの解説動画を来館者のスマートフォン等で見られるサービスの提供を引き続き実施した。								
かごしま水族館の展示更新	新型コロナウイルス感染症の影響で一時休館としていた時期もあったが、入館者数増を図るため、人数制限を行いながら特別企画展やイルカ水路でのマンボウの展示を実施するとともに、新たに360度カメラを用いたVRによる映像の配信なども実施した。 また、QRコードを用い多言語に対応した「KX鹿児島体験ムービー」を活用し、生きものの生態や展示エリアの解説動画を来館者のスマートフォン等で見られるサービスの提供を引き続き実施した。								
第75回国民体育大会・第20回全国障害者スポーツ大会の開催	交流人口の拡大等を図るため、第75回国民体育大会・第20回全国障害者スポーツ大会の開催準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、R5年に延期となり、特別国民体育大会・特別全国障害者スポーツ大会として開催されることとなった。								
桜島港フェリー施設の整備による観光客受入体制の充実	【事業終了】 桜島港施設整備計画に基づく整備は、R元年度に完了した。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については目標値を下回り、あまり達成されていないが、これは新型コロナウイルス感染症の影響を受け大幅に減少したところである。 R2年度の取組状況としては、同感染症拡大の影響により、鹿児島マラソン2021の中止や、第75回国民体育大会・第20回全国障害者スポーツ大会の開催延期など本市観光に大きな影響が出ている中、鹿児島ユナイテッドFC等が行う本市観光PR活動等に対して支援を行い、スポーツを通じた観光交流が促進されたほか、平川動物公園の新型園内バスの運行や新コアラ館の供用開始、かごしま水族館において、360度カメラを用いたVRによる映像の配信などを実施した。また、第2期グリーン・ツーリズム推進計画に基づき、グリーン・ツーリズムも着実に推進された。	スポーツの力やグリーンツーリズム等の活用により交流人口の拡大を図ることで、まちのにぎわいを維持し、地域経済の活性化につなげる。多様なツーリズムの台頭や新型コロナウイルス感染症の収束後の新たな旅行のトレンドを踏まえ、引き続き、本市のスポーツツーリズムやグリーン・ツーリズムの推進に取り組む。 【主なR3年度休止事業】 ・かごしま女子旅促進事業 ・錦江湾潮風フェスタ開催事業



検証会議の意見
KPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け大幅に減少したところであり、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、同感染症の収束が見通せない中、市内・県内の需要喚起やSNSによる魅力発信などに継続して取り組むとともに、同感染症収束後も見据え、他の自治体や民間事業者と連携しながら観光戦略について検討すべきである。

B

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	207.6	-291.8%

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 〔実績値〕 評価
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	21							a	7.87
③ 花と緑の回遊空間づくり		都市公園の市民一人当たり面積	(H27) 7.62	7.94	m ²	7.92	93.8%		
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R2)								a
鹿児島駅周辺や市立病院跡地への「都市の杜」の整備	市立病院跡地については、園路広場や遊戯施設、休憩施設、照明設備、植栽等の整備工事を行い、R2年10月に「加治屋まちの杜公園(1.37ha)」として開設した。								
城山公園自然の森の再生、武岡公園等の整備	城山公園自然の森の再生については、天然記念物である城山の植物群落を守るため、生態系を大きく破壊する外来種(モウソウチク、トウチク、ハヤトウリ)の駆除を行った。 武岡公園については、整備に向けて用地取得を行った。また、開発行為等に伴い整備された公園(計1.30ha)を開設した。								
南国・鹿児島を感じさせる都市空間の創出	H30年度に整備を行った鹿児島中央駅周辺の鹿児島らしい花木や草花の適切な維持管理を行い、市民や観光客が四季を通じて「南国・鹿児島を感じる空間」の創出に取り組んだ。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、十分に達成されている。 R2年度の取組状況としては、いずれの取組も概ね計画通りに進捗している。	関係機関と連携を図りながら、計画的な事業進捗に努め、市民や観光客が四季を通じて「南国・鹿児島を感じる都市空間」の創出に取り組む。

検証会議の意見
KPIについては、花と緑の回遊空間づくりに向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、整備・開設後の市民の利用状況を把握し、施設の改善等に反映させるとともに、公園の魅力のさらなる発信に努めていただきたい。 また、KPIについては、第2期総合戦略において、公園の利用者数、住民及び観光客のアンケート結果などを活用して施策を総合的に評価できる指標を検討していただきたい。

A

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	207.6	-291.8%

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)＊は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 〔実績値 評価〕
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	22	④ 潤いのある都市景観の形成							
		景観形成に関する意見交換会等の延べ参加者数	-	200	人 (2年間)	95	47.5%	a	100
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
景観形成重点地区の指定に向けた地域住民等との協働による取組の推進		鹿児島市景観計画では、本市特有の景観を有するなどの景観形成上重要な地区を「景観形成重点地区候補地」とし、これまで「八重の棚田地区」など5地区を指定している。R2年度は、住民等の協働により、「慈眼寺公園周辺地区」の景観計画を策定し、同計画(景観形成重点地区指定)の告示・縦覧を行うとともに、桜島玄関口地区においても住民意向調査等を行うなど、景観形成重点地区指定に向けた取組を行った。また、景観形成に対する市民意識の高揚を図ることを目的に景観アドバイザー派遣による勉強会や景観まちづくり市民教室を実施した。 (景観形成重点地区及び候補地に係る取組状況) ・磯地区 : 来訪者等への情報発信のため、地区内に景観案内板を1基設置した。 ・慈眼寺公園周辺地区 : 景観審議会等への諮問、市条例改正の議決等を経て、地区景観計画の告示・縦覧を行った。(施行日: R3年4月) ・桜島玄関口地区 : 景観計画策定への住民意向調査等を実施し、今後の取組方針の検討を行った。							
景観まちづくり活動団体の活動等への支援		「慈眼寺公園周辺地区」における住民との協議等において、団体活動応援補助金制度について説明を行い、活用を促した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、十分に達成されている。 (R元年度末改訂により、KPI「景観形成重点地区」を「景観形成に関する意見交換会等の延べ参加者数」へ入替) R2年度は、住民等との協働により「慈眼寺公園周辺地区」の景観計画を策定し、同計画の告示・縦覧を行うとともに、景観形成に対する市民意識の高揚を図ることを目的に景観アドバイザー派遣による勉強会や景観まちづくり市民教室を実施した。また、指定した地区へ補助金等の周知を図り、候補地においては住民等の景観への深い理解のもと、自らの基準づくりと継続的な景観まちづくり活動が望ましいことから、地元への働きかけ等においては、丁寧な説明を行うなど、概ね計画通り取り組んだ。	引き続き、勉強会等により、景観形成に対する市民意識の高揚を図るとともに、市景観計画に位置付けられている候補地において地元との協議等を重ね、市民等との協働による取組を推進し、景観づくりに係る合意が図られた後は、景観形成重点地区の指定を目指す。 また、指定した地区における支援(補助金等)について、現行の交付要件等の検討を行うとともに、関係部局との連携や効果的な情報発信を図るなどして、潤いのある都市景観の形成に努める。

検証会議の意見
KPIについては、潤いのある都市景観の形成に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、オンラインによる勉強会等も継続しながら、景観形成に対する市民意識の高揚を図るとともに、優れた観光資源として国内外に効果的なPRを行っていただきたい。

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	207.6	-291.8%

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 [実績値] 評価
(1) 鹿児島オリジナルの魅力向上	23								
⑤ “鹿児島ファン”の拡大		「友人・知人に鹿児島市を勧めたい」と思う市民の割合	(H30) 55.5	60.5	%	53.0	-50.0%	C	54.5
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
シティプロモーション戦略ビジョンの推進		H30年度に策定したシティプロモーション戦略ビジョンに基づく取り組みとして、シティプロモーションアドバイザーを配置し、関係機関等との意見交換や豊富な知見に基づく助言を関係部署と共有し、関連施策等に反映した。 また、シビックプライド醸成を図る大規模ワークショップ「PLAY CITY! DAYS」(参加者126名)や関係人口の創出を図る「かごしまパースプロジェクト」(トークイベント参加者延べ140名、連続講座受講者17名)に取り組んだほか、本市ブランドメッセージの浸透・拡散を図るため、「マグマやきいも電車」(参加者344名)の運行を中心としたブランディングキャンペーンを展開するなど、本市ならではの体験価値の提供やSNS等による情報拡散により鹿児島ファンの拡大に取り組んだ。 なお、一部の取組については新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえ、実施を見送っている。 ・シブヤでかごしまフェスティバル開催事業 など							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、目標値を下回り、あまり達成されていない。これは、R2年度の取組状況としては、概ね計画通りに進捗しているものの、 <u>新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの中止や外出自粛など、まちを推奨するきっかけとなる体験機会が減少したことによるものと考えている。</u>	シティプロモーション戦略ビジョンに基づく取り組みについて、庁内外との連携を強化し、より横断的に進めるとともに、策定からこれまでの経過や時勢等を踏まえ、ビジョンの改訂を行う。 関係人口の創出とシビックプライドの醸成については、それぞれの取組を一体的に行い、本市ブランドメッセージの表す「市民と市外の人との交流」による「鹿児島ファンコミュニティ」の拡大を図る。また、シンボルマーク等の認知度向上と活用促進を図り、市民や企業等と連携したプロモーションを進める。



検証会議の意見
KPIIについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、体験機会が減少したことが要因と考えられ、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、幅広い年齢層に届く情報発信の工夫や、市民、特に若い世代が鹿児島島の良さを理解し、県内外の方への発信につながる取組を検討すべきである。 また、KPIIについては、第2期総合戦略において、施策の効果がより把握できる指標に見直すべきである。

B

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R2年度)

[基本目標] **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような「誘客力の高さ」と「滞在満足度の高さ」を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	207.6	-291.8%

[基本的方向]

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

[主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)]

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(2) まちなかのにぎわい創出	24	中心市街地の歩行者通行量	(H26) 16	17.1	万人	12.4	-327.3%	C	15.0
① 集客力・回遊性の向上		カゴシマシティビューの乗客数	(H28) 18.7	20.6	万人	8.9	-515.8%		
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
鹿児島港本港区への路面電車観光路線新設の検討		観光路線のルートには本港区エリアが含まれることから、県と定期的に意見交換を行い、取組状況の把握に努めた。							
天文館ミリオネーションなどイベントの充実		中心市街地に大規模なイルミネーションで光の空間を創り出す冬のイベント「天文館ミリオネーション2021」を開催し、本市の冬季の滞在型観光の推進と宿泊観光客の増加に寄与した(来場者数: 約4万3千人)。また、R2年度は、「光の万華鏡」をテーマとした色彩豊かな空間を演出するとともに、周辺通り会や飲食店、宿泊施設と連携した取り組みを実施するなどして、中心市街地のにぎわい創出に努めた。 ※かごしまの風と光とナポリ祭、天文館六月灯ゆかた祭り、鹿児島ジャズフェスティバル、焼酎ストリートについては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止のため助成は行わなかった。							
コミュニティサイクル「かごりん」の利便性等の向上		R2年5月に西原商会アリーナ(鹿児島アリーナ)ポート、R2年8月に鹿児島中央駅西口ポート、R2年10月に加治屋まちの社公園ポートを新設したほか、R2年4月に「鹿児島ぶらりまち歩き」との連携によるかごりんコースの開始、R2年7月に利用ガイドの多言語化(英・韓・中(簡・繁))を行うなど、「かごりん」の利便性向上に取り組んだ。R2年度は延べ178,664回の利用があり、まちなかの回遊性向上を図ることができた。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、目標値を下回り、あまり達成されていない。これは、ハード面における観光路線未整備の影響のほか、天文館ミリオネーションなどのソフト面での集客力向上や、かごりんによる回遊性向上の取組の効果が、中心市街地の日常的な歩行者通行量の増としては未だ現れていないと考えられる。また、R2年度の歩行者通行量は大幅に減少したが、これは新型コロナウイルス感染症の影響により来街者が減少したことによる影響と考えられる。 (R元年度未改訂により、KPI「カゴシマシティビューの乗客数」を追加) 路面電車観光路線については、基本計画策定委員会を開催し、ルート案等について協議し、4つのルート案を設定するなど事業の進捗が図られた。 カゴシマシティビューの乗客数については、R2年度は同感染症の影響により観光客が減少し、一時的に運休や減便の対応をとったこと等から実績値が下がったものと考えられる。 中心市街地で開催されるイベント支援に関しては、同感染症の影響を受け一部実施できなかった。一方、天文館ミリオネーションについては、H27年度からR2年度までで延べ約100万人の来場があり、冬季の滞在型観光の振興に寄与し、まちなかのにぎわい創出を図った。 「かごりん」については、H27年3月の事業開始からR2年度末までで延べ956,889回の利用があり、まちなかの回遊性向上などに寄与した。	路面電車観光路線については、県の動向を踏まえながら基本計画の策定に取り組む。 天文館ミリオネーションについては、天文館地区の飲食店や通り会などと連携したイベントの拡大に努めるなど、冬季イベントの風物詩として定着するよう取り組むとともに、中心市街地でのイベントの充実を図る。 「かごりん」については、まちなかの回遊性向上への効果が期待されるため、市民や観光客等による利用促進につながるよう、引き続き、情報発信を行うなど、さらなる利便性の向上に努める。 【主なR3年度休止事業】 ・みなと大通り公園イルミネーション事業



検証会議の意見
KPIについては、新型コロナウイルス感染症による来街者の減少やイベントの中止等が要因と考えられ、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。なお、施策の推進にあたっては、かごりんのさらなる利便性向上に取り組むとともに、同感染症収束後も見据え、イベントの実施方法の検討など集客の在り方や人の流れの在り方について検討すべきである。

積極戦略 3 まちの魅力を「みがく」

検証シート (R2年度)

〔基本目標〕 **みがく**

地域経済の縮小を克服していく上では、人口減少に歯止めをかけることはもとより、交流人口を拡大し、域外の消費需要を呼び込むことも重要であり、そのためには、本市の多彩な資源を活用した観光の魅力向上や誘客に努めていかなければなりません。 歴史や自然、食など鹿児島ならではの資源に光をあて、さらに価値を高めていくとともに、国内外に情報発信していくことにより、新たな交流とにぎわいが生み出されると同時に、住む人のわがまちへの愛着と誇りが醸成されます。 そのような“誘客力の高さ”と“滞在満足度の高さ”を兼ね備えたまちの創造を目指し、まちの魅力を「みがく」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	宿泊観光客数	(H26) 336	380	万人	207.6	-291.8%

〔基本的方向〕

都市の魅力にさらなるみがきをかけるため、食の都づくり、歴史や自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成などに取り組み、鹿児島オリジナルの魅力の向上を図ります。
 また、集客力・回遊性の向上や新たな都市拠点の形成などにより、まちなかのにぎわいを創出します。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない - : 評価なし	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 [実績値 評価]
(2)まちなかのにぎわい創出	25	JR鹿児島駅の乗降客数	(H24) 121.4	122.5	万人以上	98.7	-2063.6%	c	118.7
②新たな都市拠点の形成		「かんまちあ」で開催されるイベント数	-	120	件/年	142	118.3%		194
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
鹿児島駅周辺地区における交通節機能の強化や魅力ある都市拠点の形成		鹿児島駅周辺地区の駅前広場や自由通路については、引き続き整備工事を進め、自由通路の供用を開始したほか、市道上本町磯線の整備工事を行った。 また、上町ふれあい広場及び上町の杜公園(かんまちあ)については、新型コロナウイルス感染症の影響により多くのイベントが中止となったことから、R2年度のイベント件数は142件となり、前年度から減少した。							
鹿児島港本港区における集客力のある施設の整備促進		本港区の整備については、県が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う経済情勢の深刻化などから、事業者公募を延期し、今後、改めて、グランドデザインの開発コンセプトを踏まえながらコンベンション・展示機能を備える施設の整備などその方向性を検討することとした。また、ドルフィンポート跡地の一部をイベントスペース、月極駐車場として暫定活用を開始した。							
中央町19・20番街区や千日町1・4番街区における市街地再開発の推進		鹿児島中央駅東口駅前広場に面する中央町19・20番街区については、市街地再開発組合がH30年5月に再開発ビル工事に着手し、R3年1月に完成した。 また、いづろ・天文館地区のほぼ中央に位置する千日町1・4番街区については、市街地再開発組合がR2年1月に再開発ビル工事に着手し、R3年12月の完成に向けて、予定通りに進んでいる。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、「かんまちあ」で開催されるイベント数は目標値を達成したものの、JR鹿児島駅の乗降客数は、目標値を下回り、あまり達成されていない。JR鹿児島駅の乗降客数の減少は、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられる。 R2年度の取組状況としては、鹿児島駅周辺整備については、自由通路の供用を開始したほか、かんまちあでのイベント件数は同感染症の影響があったため減少しているが、目標値を達成するなど、順調に進捗している。 また、本港区における集客力のある施設の整備促進については、県が、同感染症の影響により、事業者公募を延期するとともに、改めて、グランドデザインの開発コンセプトを踏まえながら施設の整備などの方向性を検討することとした。 さらに、中央町19・20番街区、千日町1・4番街区の再開発事業については、概ねスケジュールどおりに進んでいる。	中央町19・20番街区に続き、千日町1・4番街区及び鹿児島駅前広場が完成することから、これらの施設を中心にさらなるにぎわいの創出と回遊性の向上を図り、中心市街地全体の活性化につなげていく。



検証会議の意見	
KPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、JRの乗降客数が減少したと考えられ、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、鹿児島駅周辺地区の駅前広場や自由通路の完成による人の流れの変化をフォローアップしながら、JRなどと連携し、鹿児島駅周辺地区のさらなる魅力向上に努めるべきである。 また、KPI「JR鹿児島駅の乗降客数」については、第2期総合戦略において、市電やバスの乗降客数も含めた指標を検討すべきである。	B

基本目標

4 ひと・まちを多彩に「つなぐ」

検証シート総括表 (R2年度)

<概要>	
(1) 評価 (数値目標・KPI)	(2) 検証会議の意見
a: 十分に達成されている	A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである
b: 概ね達成されている	B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
c: あまり達成されていない	C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔数値目標〕

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)	根拠統計等
国内外の交流都市数	(H27) 21	26以上	都市	25	96.2%	a	A	(市)事業実績

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)	R元参考 (実績値)	R元参考 (評価)	根拠統計等
(1)人口減少等を見据えた持続可能なまちづくり												
①都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成	26	「日常生活における生活利便施設が整備されている」と感じる市民の割合	(H28) 68.7	73.0	%	-	-	a	A	69.1	c	(市)アンケート調査
		公共交通不便地対策の実施地域数	(H26) 12	16	地域	16	100.0%					(市)事業実績
②ストックマネジメントの強化	27	公共施設配置適正化計画に基づく事業完了施設数	-	14	施設	6	42.9%	b	A	-	b	(市)事業実績
		危険空き家の解体への助成件数	(H26) 20	144	件 (7年間)	138	95.8%			107		(市)事業実績
(2)互いに支え合う温もりのある地域社会の形成												
①地域コミュニティの形成	28	地域コミュニティ協議会数	(H26) 3	79	団体	79	100.0%	a	A	78	a	(市)事業実績
		地域コミュニティプランに基づき活動する協議会数	(H30) 50	79	団体	78	96.6%			78		(市)事業実績
②協働によるまちづくり	29	市内のNPO法人数	(H26) 396	430	団体	368	-82.4%	c	B	392	c	(市)事業実績
		NPO等が行う活動への助成件数	(H30) 12	24	件 (2年間)	9	37.5%			11		(市)事業実績
(3)移住の促進												
	30	移住セミナー等における延べ面談件数	(H30) 97	130	件/年	79	60.8%	a	A	143	a	(市)事業実績
		本市の関連施策を通じた移住者数	(H28) 17	50	人/年	121	242.0%			22		(市)事業実績
(4)都市間の交流・連携												
①国際交流の推進	31	国際交流事業への参加者数	(H26) 11,523	13,200	人	1,521	-596.4%	c	A	13,675	a	(市)事業実績
②国内の都市との多様な交流・連携	32	都市間連携に係る実施事業数	(H26) 19	25	件	25	100.0%	a	A	25	a	(市)事業実績

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

数値目標及び主な施策やKPIの進捗を踏まえた全体の評価

ひと・まちを多彩に「つなぐ」の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
<p>数値目標については、十分に達成されている。</p> <p>都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成は十分達成されているとともに、ストックマネジメントの強化は概ね達成されており、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりが進められている。</p> <p>市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会の形成に向けた地域コミュニティの形成は十分に達成されているが、一方で、協働によるまちづくりにかかるKPIについては、あまり達成されていない。</p> <p>また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援による本市への移住促進や国内の都市との多様な交流・連携は十分に達成されているが、一方で、国際交流の推進にかかるKPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響により事業の一部が縮小・中止となったことからあまり達成されていない。</p>	<p>協働によるまちづくりについて、既存のNPOが休眠状態に陥らないよう、また、コロナ禍でも活動が継続できるよう必要な支援のあり方を検討していくほか、国際交流の推進については、新型コロナウイルス感染症収束後の交流に向けた継続的な協議や市民主体の国際交流活動の促進に向けた取組をさらに推進するとともに、引き続き、持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開する。</p>	<p>数値目標については、ひと・まちを多彩に「つなぐ」という基本目標に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、当面、リアルに「つなぐ」ことが困難な状況が続くと思われる中、オンラインによるメリットを活用しながら、同感染症収束後も見据え、活動の手法・在り方の見直しを検討するなど、今後も工夫を重ね取組の推進に努めていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることによって、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	26以上	都市	25

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

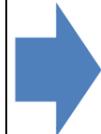
<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
---	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(1)人口減少等を見据えた持続可能なまちづくり									
①都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成	26	「日常生活における生活利便施設が整備されている」と感じる市民の割合	(H28) 68.7	73.0	%	-	-	a	69.1
		公共交通不便地対策の実施地域数	(H26) 12	16	地域	16	100.0%		16
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							c
立地適正化計画の策定・推進		立地適正化計画(H29年3月策定)の着実な推進を図るため、商業・福祉・交通など多様な分野の学識経験者、関係団体、関係行政機関の外部委員等で構成する推進協議会及び庁内関係課で構成する推進庁内会議を開催し、プランの進捗管理等を行った。							
公共交通ビジョンの見直し・推進		公共交通ビジョン(H22年3月策定、H29年3月見直し)の着実な推進を図るため、学識経験者、交通事業者、関係行政機関等で構成する推進会議を開催し、施策の実施状況や目標の達成状況を把握し、調整を行うとともに、第二次ビジョン策定に向け基礎調査を行った。							
公共交通不便地対策の拡充・維持		コミュニティバス等の運行を継続するとともに、錫山地区の乗合タクシーについて、地域の要望を踏まえ運行時刻の見直しを行った。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、「公共交通不便地対策の実施地域数」は十分に達成されている。 立地適正化計画は、策定・見直しを行い、推進協議会等を開催して進捗管理等を行った。 公共交通ビジョンは、H28年度に見直しを行い、毎年度、推進会議を開催して進捗管理等を行ったほか、R2年度は第二次ビジョン策定に向け基礎調査を行った。 公共交通不便地対策は、H28年度に小原地域、小野・伊敷地域の2地域においてコミュニティバスの運行を開始したほか、H30年度に常盤地域、平川古屋敷地域の2地域において乗合タクシーの運行を開始した。 これらの取組により、都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成に資する取組の推進が図られた。	立地適正化計画では、推進協議会等を開催し、届出対応等による住宅建築や誘導施設の動向把握を行うとともに、概ね5年ごとに必要に応じて計画の見直しを行うこととされていることから、国の動向や国・県との協議等を踏まえ、見直しを検討する。 公共交通ビジョンでは、関係事業者等と一体となって、公共交通を軸とした交通体系を構築するため、推進会議を開催し、施策の進捗状況の把握や調整等を行い、同ビジョンの推進を図るとともに、第二次ビジョンの策定を行う。 また、公共交通不便地対策では、周知広報等に努め、改善を図りながら引き続きコミュニティバス・乗合タクシーの運行等を実施する。 KPI「公共交通不便地対策の実施地域数」については、現在対策を実施している地域で、対策を継続することを目標としている。



検証会議の意見
KPIについては、都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、利用者等のニーズを把握した上で、コミュニティバスや乗合タクシーの利便性の向上を図るほか、公共交通の必要性などについて市民の理解が深まるよう、工夫した情報発信を行っていただきたい。
A

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることによって、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	26以上	都市	25

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

<概要> (1) 評価 (KPI) a: 十分に達成されている b: 概ね達成されている c: あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	--

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(1) 人口減少等を見据えた持続可能なまちづくり									
② スtockマネジメントの強化	27	公共施設配置適正化計画に基づく事業完了施設数 危険空き家の解体への助成件数	— (H26) 20	14 144	施設 件 (7年間)	6 138	42.9% 95.8%	b	— 107
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							b
公共施設等の計画的な更新・長寿命化		公共施設配置適正化計画に基づき、建替えを検討するもの4施設、複合化を検討するもの1施設、廃止を検討するもの1施設の事業が完了した。							
空き家等の対策の強化		「鹿児島市空き家等対策計画」に基づき空家活用アドバイザー派遣等の施策に取り組み、危険空き家の解体については31件の助成を行った。							
良質な住宅ストックの形成の促進		29年度に見直した「鹿児島市公営住宅等長寿命化計画」に基づき、既存の市営住宅の「建替」と並行し、既存ストックを耐用年限まで使用するための「改善」を実施した。また、民間住宅については、耐震改修工事の助成や耐震アドバイザーの派遣等を行った。							
団地再生の推進		団地再生推進庁内検討会において、地域主体の取組の実現に向けた施策など、策定する計画に関する検討を行い、計画素案のパブリックコメント手続を実施するとともに対象29団地の地域コミュニティ協議会等への説明を踏まえ、活性化の基本的な考え方や、取組方針などを取りまとめた「かごしま団地みらい創造プラン」を策定した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、概ね達成されている。 (R元年度末改訂により、KPI「公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画の策定・改定数」を「公共施設配置適正化計画に基づく事業完了施設数」へ入替) R2年度の取組状況としては、公共施設配置適正化計画に基づき、建替え等6施設の事業が完了したほか、空き家等対策、良質な住宅ストックとともに、これまで充実させてきた施策に取り組んだ。また、良質な住宅ストックの形成を促進するため、計画に基づき既存市営住宅の建替、改善を実施した。 団地再生では、H29年度から団地再生推進庁内検討会を設置し、団地再生の手法や具体策を検討するとともに、地域住民等とのワークショップ等を行ってきたところであり、R2年度は、庁内検討会の開催や、策定する計画素案のパブリックコメント手続を実施するとともに、対象29団地の地域コミュニティ協議会等に説明を行い、活性化の基本的な考え方や取組方針などを取りまとめた「かごしま団地みらい創造プラン」を策定した。	公共施設等の計画的な更新・長寿命化については、財政負担の軽減・平準化を図るため、公共施設配置適正化計画に基づく事業を計画的に実施するとともに、空き家等対策の強化については、引き続き空き家等対策計画に基づき取り組む。 また、H29年度に見直した「公営住宅等長寿命化計画」に基づき、建替や改善を実施するほか、民間住宅については、引き続き補助等の取組を進めることで、良質なストック形成の促進を図る。 団地再生の推進については、「かごしま団地みらい創造プラン」に基づき、庁内の連携を図るとともに、対象29団地における地域主体の取組の実現に向けて、意見交換会、実践セミナー、ワークショップの運営支援、職員や専門家による助言等の支援を行う。	KPIについては、ストックマネジメントの強化に向けて、概ね達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、危険空き家の解体においては、助成制度の周知をさらに進めるとともに、所有者不明や相続人不存在などへの対応について検討するほか、団地再生においては、若い世代を入れた団地再生ワークショップのさらなる充実を図っていただきたい。

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながること、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27) 21	26以上	都市	25	96.1%

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成	28	地域コミュニティ協議会数	(H26) 3	79	団体	79	100.0%	a	78
① 地域コミュニティの形成		地域コミュニティプランに基づき活動する協議会数	(H30) 50	79	団体	78	96.6%		78
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R2)								a
市内全域における地域コミュニティ協議会の設立・活動支援	R2年度までに全79団体の設立を完了し、プラン策定等の活動を支援した。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、十分に達成されている。 (R元年度末改訂により、KPI「地域コミュニティプランに基づき活動する協議会数」を追加) 地域コミュニティ協議会数は、R2年度に1団体の設立を行い、全79団体の設立が完了し、目標値を達成している。 協議会設立後は、地域コミュニティプランの策定を支援することにより、プランに基づき活動する協議会数も78団体となるなど順調に推移している。	幅広い団体・世代が連携・協力してまちづくりに取り組んでいくよう、協議会における地域コミュニティプランの策定、プランに基づく活動を積極的に支援するとともに、地域活動の担い手の育成や課題解決に向け協議会相互の交流等による活動の活性化を検討する。	KPIについては、地域コミュニティの形成に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、参加住民の固定化や世代間の偏りが生じないように、地域住民の参加意識の向上や参加しやすい組織づくりを進めるほか、地域コミュニティ間の交流も図っていただきたい。 A

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。
 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながること、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。
 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
国内外の交流都市数	(H27) 21	26以上	都市	25	96.1%

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成	29	市内のNPO法人数	(H26) 396	430	団体	368	-82.4%	c	392
② 協働によるまちづくり		NPO等が行う活動への助成件数	(H30) 12	24	件 (2年間)	9	37.5%		11
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							c
NPO等の育成・支援、連携強化など市民活動の促進		市民活動団体の育成支援や多様な主体の連携などを目的に、活動に必要なノウハウを習得する講座の開催、市民活動団体の情報発信を行うとともに、公益的なサービスを提供する市民活動団体に対し、活動経費の一部を助成し、活動への具体的な助言を行った。 取組を進めるにあたっては、講座の参加者の取組を情報発信したり、補助金の助成対象団体の参加者に講座の参加を促すなど、それぞれを連動して実施することで、実効性を高められるよう努めた。 ※主な実績: 講座への参加者数36名、市民活動団体の情報発信10団体、市民活動団体の活動費助成9団体 ※講座については、あわせてNPO以外の多様な主体との連携を促進するためのワークショップも実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で内容の一部変更、見送りをした。また、活動経費への助成についても、同様に団体の事業の見送りにより、実績が見込みを下回った。(R2年度 9件)							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、目標値を下回りあまり達成されていない。これは、R2年度は特にNPO法人数の減少幅が大きく、活動への助成件数も新型コロナウイルス感染症の影響で助成事業の中止が相次いだことによるものである。 (R元年度末改訂により、KPI「NPO等が行う活動への助成件数」を追加) 全国的にNPO法人数の増加は鈍化傾向(H28年度は約600法人、H29年度は約300法人の増加)となっていたが、H30年度には、H10年の特定非営利活動促進法の施行以来、初めて減少に転じ、R2年度も同様に減少している。 本市や県全体でも同様の傾向となっており、H29年度に減少に転じていたが、R2年度は9法人が設立、31法人が解散、2法人が市外転出し、対前年度24法人の大幅減となった。 R2年度の取組状況としては、引き続き、市民活動団体の活動に必要なノウハウの習得の支援や資金面での支援を行ったところであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の団体で活動の中止、制限があったようである。	今後とも、市民活動団体の育成支援や多様な主体による連携促進を図るとともに、市民活動団体の情報を市としても積極的に発信していくなど、市民活動促進のための取組を継続していく。 本市のNPO法人数については、人口1万人あたりの法人数と比較すると、人口規模が同程度の中核市と比べても突出して多く、市内の法人数がH25年度をピークに減少している状況からも飽和状態にあるのではないかと考えている。また、国の調査では、休眠状態のNPO法人は全体の約15%となっている。 今後は、これまでの検証会議の意見でもあったとおり、既存のNPOが休眠状態に陥らないよう、また、コロナ禍でも活動が継続できるよう必要な支援のあり方を検討していく必要がある。 【主なR3年度休止事業】 ・NPO基盤強化事業



検証会議の意見
KPIについては、NPO法人数の大幅な減少や新型コロナウイルス感染症の影響で助成事業の中止が相次いだことにより、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、解散や休眠状態の原因を把握・分析し、必要な対応策を実施するほか、同感染症の影響を踏まえた適切な支援やNPOの相互連携を促すなど積極的な取組を検討すべきである。 また、KPIについては、NPO法人数の飽和状況を分析する中で、第2期総合戦略において、活動状況の測定など施策の効果をより把握できる指標を検討すべきである。

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながること、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27) 21	26以上	都市	25	96.1%

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

＜概要＞	
(1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(3) 移住の促進	30	移住セミナー等における延べ面談件数	(H30) 97	130	件/年	79	60.8%	a	143
		本市の関連施策を通じた移住者数	(H28) 17	50	人/年	121	242.0%		22
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							a
ワンストップ型PRツールの制作・情報発信		ポータルサイトやパンフレット等を活用した効果的な情報発信を行うとともに、オンライン相談会等を通して、本市の魅力や生活環境、就労・住まい・子育て支援等の情報発信に取り組んだ。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、移住セミナー等が中止になるなどして、移住検討者との面談による相談機会が減少した。 (移住セミナー等における延べ面談件数 R元年度143件→R2年度79件(オンラインで対応))							
移住相談体制の充実及び関係機関との連携強化		新たに、WEB会議システムを活用したオンライン相談を実施するとともに、引き続き、移住支援コーディネーターによる、移住希望者のニーズに合わせたきめ細かな情報提供や相談対応、移住後のフォローアップ等の支援を行い、相談体制の充実を図ったほか、会員としてふるさと回帰支援センターと連携強化を図った。							
移住支援制度の整備・拡充		新たに、新型コロナウイルス感染症の影響による「新しい生活様式」等への対応を図るため、オンライン相談やIJU倶楽部会員特典サービス制度、移住奨励金の実施に取り組んだほか、引き続き、各部署が実施している移住支援に係る各事業の概要等の取りまとめを行い、市のHPなどで公開するとともに、個別の移住相談などにおいて情報提供を行い、支援の充実を図った。また、移住促進庁内連絡会において、幅広い世代の本市への円滑な移住の促進に向けた連絡調整を図った。 なお、同感染症の影響により、移住体験ツアーの実施を見送った。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、十分に達成されている。 (R元年度末改訂により、KPI「本市への移住相談件数」を「移住セミナー等における延べ面談件数」へ入替) R2年度の取組状況としては、新たに、新型コロナウイルス感染症の影響による「新しい生活様式」等への対応を図るため、オンライン相談やIJU倶楽部会員特典サービス制度、移住奨励金を実施するとともに、引き続き、ポータルサイト等を活用して、本市の魅力や生活環境の効果的な情報発信を行ったほか、移住支援コーディネーターによる、移住希望者のニーズに合わせた情報提供や相談対応、移住後のフォローアップ等の支援を行うなど、相談体制の充実を図り、本市への移住促進に向けた取組を推進した。	R3年度は、引き続き、オンライン相談やIJU倶楽部会員特典サービス制度、移住奨励金を実施するとともに、ポータルサイト等を活用した本市の魅力や生活環境の効果的な情報発信に取り組むほか、移住支援コーディネーターによる相談対応や移住関連イベントへの参加などにより相談・フォローアップ体制の充実を図り、幅広い世代の本市への円滑な移住を促進する。	KPIについては、移住の促進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響による地方への移住の関心の高まりや新たな働き方など、国民の意識・行動の変化を踏まえながら、引き続き、移住希望者のニーズの把握と移住後のフォローアップ体制の充実を図っていただきたい。

A

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。
 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながることで、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。
 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。

指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
国内外の交流都市数	(H27) 21	26以上	都市	25	96.1%

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(4) 都市間の交流・連携	31	① 国際交流の推進	(H26) 11,523	13,200	人	1,521	-596.4%	C	13,675
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
姉妹友好都市等との交流の推進		新型コロナウイルス感染症の影響により、ナポリ市、マイアミ市との姉妹都市盟約周年事業や青少年の翼事業など海外の往来を伴う交流は中止したが、姉妹友好都市等の市民へのPRとして新たに市電ストラスプール号の運行を開始するとともに、既存の市電姉妹友好都市号のリニューアルを行った。 また、友好都市である長沙市との間でマスク等医療物資の相互支援を行った。							
市民レベルの交流の促進		国際交流センターを中心に、年間を通して、市民や在住外国人を対象とした国際理解や多文化共生の地域づくりの推進等に関する各種事業・イベントを開催した。 かごしまアジア青少年芸術祭については、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止したが、代替イベントとして、青少年ボランティアと海外団体によるオンライン交流会を実施した。							
県と連携した国際交流センターの整備		R2年4月1日に国際交流センターの供用を開始し、新型コロナウイルス感染症の影響による休館等があったものの、各種講座やイベントの実施等により、月ごとの利用者数は増加傾向にある。							
ネクスト“アジア・鹿児島”イノベーション戦略の推進		先進的な取組を行う民間事業者等を支援する(新型コロナウイルス感染症の影響により、補助対象6事業中2事業は事業を中止)とともに(国の地方創生推進交付金を活用)、本市に居住するアジアからの外国人に対する情報提供方法の検討の一環として、提供が必要な生活情報等を把握するため、WEBアンケート調査を実施した。							

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
<p>KPIの進捗については、目標値を下回り、あまり達成されていない。これは、多くの事業が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止または縮小されたことによるものである。 R2年度には、本市の国際交流の拠点施設として国際交流センターを供用開始し、指定管理者の市国際交流財団と連携しながら、各種事業やイベントの開催により市民主体の幅広い国際交流活動の促進に取り組んだ。 往来を伴う交流が難しい状況であるが、市電姉妹友好都市号のリニューアル等を通じたPRやオンラインによる現地との交流のほか、長沙市とのマスク等医療物資の相互支援など同感染症の影響下においても可能な取組を行った。</p>	<p>姉妹友好都市等との交流については、新型コロナウイルス感染症の影響下においてもオンライン等を活用した交流を引き続き行うとともに、同感染症収束後の交流についても継続的に協議を行う。 また、R2年度から供用開始した国際交流センターを拠点として、各種事業やイベントを通じた市民と在住外国人との交流機会の充実など、市民主体の国際交流活動の促進に向けた取組をさらに推進する。 さらに、本市における“アジアの日常化”に向け、未来を担う子ども・若者をターゲットの一つとし、多文化共生の推進も主な取組として盛り込んだアジア戦略を官民連携して推進する。 【主なR3年度休止事業】 ・アジア青少年芸術祭開催事業 ・青少年の翼事業</p>



検証会議の意見
<p>KPIについては、多くの事業が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止または縮小されたことにより、あまり達成されていない。取組の方向性は妥当であることから、引き続き、同感染症の状況を踏まえながら、取組の推進を図るべきである。 なお、施策の推進にあたっては、国際的な人の往来に制限がある間は、現状の取組を推進する一方、同感染症収束後も見据え、オンライン・オフラインそれぞれの利点を生かした交流の在り方を検討していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

〔基本目標〕 つなぐ

地方創生を目指す上では、一定の人口減少に適応した地域づくりも重要であり、そのためには、人口減少を前提とした持続可能なまちづくりも進めなければなりません。 生活する「ひと」にも配慮しながら、長期的視点に立って、「まち」のあり方を見直すことにより持続性が高まるほか、「ひと」と「ひと」がつながることにより、知恵と創意が結集したまちづくりが進み、心の通じ合う地域社会が形成されるとともに、「まち(都市)」と「まち(都市)」がつながること、お互いの強みを生かした新たな成長が生まれます。そして、これらを通じて「ひと」が住みたい、住み続けたいと思える「まち」が生まれ、移住と定住が促進されます。 そのような持続性と発展性を備えたまちを将来世代に引き継いでいくため、ひと・まちを多彩に「つなぐ」取組を展開します。	指標	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値
	国内外の交流都市数	(H27)	21	26以上	都市	25

〔基本的方向〕

都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成や、ストックマネジメントの強化などにより、人口減少等を見据えた持続可能なまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成、協働によるまちづくりに取り組み、市民一人ひとりが力を発揮し、互いに支え合う温もりのある地域社会を形成します。
 また、移住希望者の多様なニーズに対応した支援に取り組み、本市への移住を促進するほか、国際交流の推進や、国内の都市との多様な交流・連携を進めます。

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

<概要> (1) 評価 (KPI) a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	---

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
(4) 都市間の交流・連携	32	都市間連携に係る実施事業数	(H26)	19	25	件	25	100.0%	a
② 国内の都市との多様な交流・連携									
主な取組内容	具体的な取組の内容 (R2)								
四都市連携(本市及び熊本市、福岡市、北九州市)の強化	市民割引料金の他3市の市民への適用を引き続き行った。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、地場企業販路拡大に向けた共同情報発信、連携による観光プロモーション、環境分野での連絡会議は実施を見送った。								
松本市や札幌市、渋谷区等との交流の充実	市政広報紙での各市の観光スポット紹介、松本市及び札幌市との職員の人事交流、松本市からサッカーJリーグ「松本山雅FC」の春季キャンプの受入などを行った。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、本市のクリエイティブ産業振興の取組等を全国で情報発信するため渋谷区で行っているイベントをオンライン開催としたほか、各都市イベントへの相互参加や、他都市と連携した観光プロモーション等は中止となった。								

KPIや具体的取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、十分に達成されている。 R2年度までに、交流協定都市との周年事業やクリエイティブ産業振興の取組など新たな連携事業を実施してきた。 R2年度は市政広報紙での各市の観光スポット紹介、松本市及び札幌市との職員の人事交流、松本市のサッカーチームのキャンプ受入などを行ったが、 <u>新型コロナウイルス感染症の影響で渋谷区で行っているクリエイティブ産業振興のイベントをオンライン開催としたほか、各都市イベントへの相互参加や、他都市と連携した観光プロモーション等は中止となった。</u>	各都市と本市の個性や共通点を把握したうえで、新たな連携事業の創出を引き続き検討するとともに、連携の効果が市民に伝わるよう機会を捉えた周知広報に努め、新型コロナウイルス感染症の収束後に向けた取組を行う。 また、官民の連携した取組についても観光や産業、環境の分野などにおいて、引き続き検討を行う。 【主なR3年度休止事業】 ・鹿児島市・松本市スポーツ交流事業 ・鹿児島・渋谷クリエイティブシンポジウム開催事業	KPIについては、国内の都市との多様な交流・連携に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、引き続き、官民連携した取組を推進するとともに、連携した取組が市民に見えるよう工夫していただきたい。

重点戦略

(1) 世界基準の観光地域づくり

検証シート総括表 (R2年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」
3. まちの魅力を「みがく」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)	R元参考 (実績値)	R元参考 (評価)	根拠統計等
(1) 世界に誇りうる地域資源の活用	33	外国人宿泊観光客数	(H26) 12	30	万人	6.5	-30.6%	c	B	49.3	a	(市) 観光統計
① 世界文化遺産の活用												
② JR磯駅の設置促進												
③ 世界ジオパーク認定に向けた取組の推進												
(2) 外国人観光客の誘致・受入体制の整備												
① 鹿児島観光コンベンション協会の体制強化・DMO戦略プランの推進												
② 東アジア等に向けた観光プロモーションの推進												
③ 外国人観光客の受入体制の充実												

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

<p><摘要></p> <p>(1) 評価 (KPI)</p> <ul style="list-style-type: none"> a : 十分に達成されている b : 概ね達成されている c : あまり達成されていない 	<p>(2) 検証会議の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである
--	---

重点戦略 (1)世界基準の観光地域づくり

検証シート (R2年度)

〔基本的方向〕

日本列島をつなぐ新幹線の南の発着点であり、東アジアに近接する陸・海・空の交通結節点でもある本市にとって、観光関連産業の発展や成長は重要です。地域経済のさらなる活性化のためには、観光を持続性のある地域ビジネスとして、より発展させていくことが必要不可欠と言えます。
 平成26年の本市観光統計では、宿泊観光客数が336万6千人と前年を上回りましたが、とりわけ外国人宿泊観光客数が12万6千人で前年比31.3%増と大きく伸びており、インバウンドが大きな可能性を秘めています。
 このような中、本市では「旧集成館関連遺産群」を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録され、また、「桜島・錦江湾ジオパーク」の世界ジオパーク認定に向けて取組を展開しており、これらを絶好の機会として、特に外国人宿泊観光客数の拡大に向け、戦略的かつ広域的に取り組むため、鹿児島観光コンベンション協会 の組織体制の充実・強化並びに民間との連携の強化を図り、ストーリー性を持った魅力あふれる世界基準の観光地域づくりを進め、若者にとって魅力的な雇用の場を創出するとともに、交流人口の増加による地域経済の活性化を図ります。

<概要>	
(1) 評価 (KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない	(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

(注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値(R3)	単位	実績値(R2)	対目標値	評価(R2)	R元参考 〔実績値 評価〕
(1)世界に誇りうる地域資源の活用 (2)外国人観光客の誘致・受入体制の整備	33	外国人宿泊観光客数	(H26) 12	30	万人	6.5	-30.6%	c	49.3
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
(1) ①世界文化遺産の活用		「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録5周年を記念するイベント等の実施のほか、構成資産周辺の清掃活動やおもてなしのさらなる充実など、本市構成資産について、その価値や魅力の情報発信、理解増進等の取組を推進した。							
②JR磯駅の設置促進		R2年5月28日に、経済団体、民間企業、県、市で構成される事業主体「磯新駅設置協議会」が設立され、R3年3月31日には、同協議会とJR九州との間で磯地区への新駅設置に関する覚書が交換された。							
③世界ジオパーク認定に向けた取組の推進		桜島・錦江湾ジオパークの世界認定に向けて進めてきた鹿児島市全域及び始良市、垂水市へのエリア拡大が認定されたほか、ジオツアーを実施するなど、ジオパーク活動の充実を図った。また、アジア太平洋地域におけるジオパークネットワークについては、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン会議に定期的に参加するなど、国際交流・国際貢献に関する取組を進めた。							
(2) ①鹿児島観光コンベンション協会の体制強化・DMO戦略プランの推進		さらなる観光振興による本市経済の活性化を図るため、鹿児島観光コンベンション協会の組織体制の充実・強化を支援し、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、海外向け事業は国内に振替えて実施するなど、鹿児島市DMO戦略プランに基づく、官民連携事業を推進した。(地方創生推進交付金を活用)							
②東アジア等に向けた観光プロモーションの推進		新型コロナウイルス感染症の影響を受け、直接的なプロモーションはできなかったが、アフターコロナにおける海外からの誘客につなげるために、本市の魅力を発信するためのコンテンツ制作を行ったほか、外国人観光客の誘致促進を図るため、留学生等を「観光アンバサダー」に任命し、SNS等により母国語で継続的な情報発信を行うとともに、留学生等からの意見・提言により、各市場のニーズ等を踏まえたインバウンド施策を推進した。(地方創生推進交付金を活用)							
③外国人観光客の受入体制の充実		本市を訪れる外国人観光客の満足度を高めるため、民間事業者による外国語案内表記等に対して助成するとともに、本市観光施設のWi-Fi運営等を行った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)
KPIの進捗については、目標値を下回り、あまり達成されていないが、これは新型コロナウイルス感染症の影響を受け大幅に減少したところである。 R2年度の世界に誇りうる地域資源の活用における取組状況としては、世界文化遺産については、世界文化遺産登録5周年を記念するイベント等の実施など、情報発信、理解増進を図った。また、磯新駅については、事業主体となる磯新駅設置協議会が設立され、同協議会とJR九州との間で新駅設置に関する覚書が交換された。さらに、ジオパークについては、世界ジオパーク認定に向けて進めてきたエリア拡大が認定された。 外国人観光客の誘致・受入体制の整備においては、同感染症の影響を受け、海外への直接的なプロモーションを行うことはできなかったものの、鹿児島観光コンベンション協会においては、DMO戦略プランに基づく取組について海外向けの事業を国内向けに振替えるなどして実施した。また、外国人観光客の満足度を高めるため、民間事業者を支援し、受入体制の充実を図った。	世界文化遺産とジオパークの相互連携による一体的な情報発信や活用など、効果的な事業の推進を図るとともに、戦略的なプロモーションを引き続き実施していく。 施策の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症収束後に向けて、外国人観光客のニーズや属性等の情報収集・分析、衛生対策の強化などの受入体制の充実、関係機関と連携した誘致プロモーションなどにより、国内外からの観光客の回復に取り組む。 【主なR3年度休止事業】 ・“世界を視野に”外国人観光客誘致宣伝事業 ・留学生等アンバサダー設置事業



検証会議の意見
KPIについては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け大幅に減少したところであり、あまり達成されていない。全般的には推進すべきだが、同感染症の状況を踏まえ、取組の一部を改善する必要がある。 なお、施策の推進にあたっては、外国人観光客のニーズや属性等の情報収集・分析に努め、受入体制の充実や県内の世界自然遺産などと連携した誘客等に取り組むなど、同感染症収束後の観光トレンド等も見据えた施策を検討・充実させるべきである。

B

重点戦略

(2) 健“高”医“良”都市の創造

検証シート総括表 (R2年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」
2. 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」
4. ひと・まちを多彩に「つなぐ」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)	R元参考 (実績値)	R元参考 (評価)	根拠統計等
(1) 健康と生きがいを実感できる市民生活の提供	34	新たなヘルスケアビジネスの展開に取り組む事業者数	(H26) 8	67	事業者 (7年間)	68	101.5%	a	A	63	a	(市) 事業実績
①ヘルスケア分野に関する新たな産業の創出		介護保険サービスの総給付費に占める在宅サービス費の割合	(H26) 51.7	56.0	%	55.4	86.0%					(市) 事業実績
②生涯活躍のまち構想・基本計画の策定・推進												
③地域包括ケアの推進												
④民間医療機関等との連携強化												

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

<概要>

(1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている
- b : 概ね達成されている
- c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
- B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
- C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔基本的方向〕

超高齢社会の進行が見込まれる中においては、誰もが生きがいを持って健やかに暮らせる地域社会の創造を目指していくことが重要です。
 また、本市産業の特性を見ると、ウェイトの高いサービス業の中でも、特に「医療・福祉業」の集積が厚く、常用雇用者数の推移も、平成24年が約3万9千人となり、平成16年と比べ約1.5倍と大きく増加しています。経済振興の観点からも、この分野に重点を置いた取組を進めていくことが有用です。
 本市の豊かな地域資源や充実した都市機能を活用しながら、本市の基盤産業の一つである医療・福祉業を生かした健康分野に関する新たな産業の創出、さらには民間主導による生涯活躍のまち(CCR C)構想の検討に取り組むとともに、医療・介護の施設や体制の充実などを通して、市民が、高い健康水準を保ちながら生き生きと暮らし、併せて、良好な医療・介護サービスを受けることができる健“高”医“良”都市の創造を図り、これにより、女性や若者の雇用の場の確保にもつなげていきます。

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(1)健康と生きがいを実感できる市民生活の提供	34	新たなヘルスケアビジネスの展開に取り組む事業者数	(H26) 8	67	事業者 (7年間)	68	101.5%	a	63
		介護保険サービスの総給付費に占める在宅サービス費の割合	(H26) 51.7	56.0	%	55.4	86.0%		55.9
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							a
①ヘルスケア分野に関する新たな産業の創出		ヘルスケアビジネス創出セミナー(2回)の開催、ヘルスケア分野のビジネスアイデアの創出とその事業化支援(事業化支援:4者)、経済産業省「認知症共生社会に向けた製品・サービスの効果検証事業」を活用したプロジェクトの支援のほか、産学連携のきっかけづくりを目的としたマッチングイベントの開催(8回)や、新サービス等の創出に向けた取組に対する助成(4者)等を通じて、新たなヘルスケアビジネスの事業化支援を実施した。 これらの支援の結果、「『健康食』の開発を支援する機能的表示食品開発支援サービス」や「『withコロナ』『afterコロナ』に向けた健康経営・働き方改革への実践的な取組み」の開発などに繋がった。なお、R2年度において、「ヘルスケア産業部会」に新たに5者が登録した。							
②生涯活躍のまち構想・基本計画の策定・推進		鹿児島市「生涯活躍のまち」構想・基本計画に基づき、「生涯活躍のまち」形成に取り組む事業主体を支援し、喜入地域における形成事業の推進を図った。また、その取組の情報発信に努めながら更なる事業効果の波及を目指して、新たな事業主体の募集を行ったが、応募には至らなかった。(国の地方創生推進交付金を活用)							
③地域包括ケアの推進		要支援者等を対象に多様なニーズに対応したサービスを提供する介護予防・日常生活支援総合事業を実施するとともに、地域包括支援センターの職員を増員(2人)し、サブセンターを設置するなど、増加している相談への対応強化等と、高齢者の介護予防・自立支援を推進した。(相談件数:R元年度83,279件→R2年度94,972件) なお、R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、通所サービス等の利用が伸び悩み、KPI「介護保険サービスの総給付費に占める在宅サービス費の割合」の実績値が前年度より減少した。 また、高齢者が誰でも参加できる介護予防活動を実施する「よかよか元気クラブ」178か所、及び地域の閉じこもりがちな高齢者に声かけし、心身機能の維持回復に努める「お達者クラブ」216か所が継続的に活動できるようハビリ専門職を派遣する等、介護予防の推進に努めた。							
④民間医療機関等との連携強化		市立病院では地域医療支援病院として、地域医療機関との連携を推進するため、地域の医療機関への訪問(R元年度31回→R2年度51回)や医療機関を招いた連携に関する講演会の開催(地域医療連携講演会:R元年度2回→R2年度1回)等を行うなどして、医療連携の推進等に取り組んだ。なお、これらの取組は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて事業の見直しを図り、オンライン開催とした。							

次ページに続く

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等（R2年度まで）	今後の方向性(考え方)
<p>KPIの進捗については、十分に達成されている。</p> <p>R2年度の取組状況としては、健康寿命延伸や地域包括ケアシステムの構築に資するヘルスケアビジネス創出の促進をはじめ、「生涯活躍のまち」を形成する事業主体の支援や高齢者の相談・支援体制の構築、生活援助を行うボランティア団体や地域で介護予防活動を展開する団体の支援等を行った。</p> <p>市立病院では地域医療支援病院として、他の医療機関との連携や地域に必要な医療を確保するための医療機関相互の機能分化を推進した。</p>	<p>引き続き、健康寿命延伸や地域包括ケアシステムの構築に資するヘルスケアビジネス創出を図るため、関係機関と連携しながら、ビジネスアイデアの創出とその事業化支援に取り組む。</p> <p>「生涯活躍のまち」形成に向け、引き続き、喜入地域における事業主体の取組を支援し、自走化・自立化を促進する。</p> <p>地域包括ケアの中核的役割を担う地域包括支援センターの機能を強化するなど、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスの一体的な提供体制の充実・強化を図るとともに、「よかよか元気クラブ」の活動に対し、県補助金を活用したポイントの付与を行うなど地域での通いの場の増加や継続的な活動の支援を行う。</p> <p>市立病院では地域医療支援病院として、地域の医療機関との医療連携や相互の機能分化を推進するため、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえながら医療機関への訪問等の取組を充実していく。</p>



検証会議の意見
<p>KPIについては、健康と生きがいを実感できる市民生活の提供に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。</p> <p>なお、施策の推進にあたっては、引き続き、健康寿命を延ばす取組を推進するほか、「生涯活躍のまち」形成に取り組む事業主体を支援していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

重点戦略

(3) 大学との連携強化とふるさと教育の推進 検証シート総括表 (R2年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」
4. ひと・まちを多彩に「つなぐ」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)	R元参考 (実績値)	R元参考 (評価)	根拠統計等
(1) 大学との連携強化	35	市内大学生の県内就職率	(H26) 61.7	69.7	%	61.5	-2.5%	b	A	56.5	b	COC+に参画している市内5大学の公表資料
① 大学等の特色を生かした共同研究・連携による各種施策の実施		市内6大学との新規連携事業・取組数	—	51	事業 (5年間)	63	123.5%			56		(市) 事業実績
② 学生が主体的に地域を学ぶ活動への支援やまちづくりへの関心を高める場の創出												
③ 市内の大学が推進する地域連携・協働事業との連携												
(2) ふるさと教育の推進	36	郷土教育に係る体験活動の実施率	(H26) 90.6	100.0	%	99.1	89.4%	a	A	100.0	a	(国) 学校教育についての実態調査
① 郷土教材の活用や地域人材等の授業への参画												
② 人材育成プログラム(かごしま創志塾・ジュニア創志塾)の策定・実施												
③ 職場体験活動の充実												
④ まちづくり提言の機会の創出												

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

<摘要>

(1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている
b : 概ね達成されている
c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔基本的方向〕

地方に魅力ある雇用の場が少ないこと等を背景に、若い世代が大学等の卒業時に大都市圏へ流出しており、地元への定着やUターンを図るためには、雇用環境の改善はもとより、生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育むことが重要です。
本市と協定を締結している大学と、それぞれの特色を生かした連携事業をはじめ、市内の6つの大学と連携しながら、歴史、伝統や自然という豊富なフィールドの下で、学生の主体的なまちづくりへの参画や地域を学ぶ活動を通して、若者定着に向けた取組等を推進します。
また、小学校から高等学校までの各ステージにおいて、郷土の歴史や偉人、先人等を教材にした地域への理解を深める取組や、まちづくりについて夢やアイデアを出し合い、意見交換を行う取組も進め、「ふるさと・鹿児島」への誇りと愛着の心を育みます。
これらを通して、まちづくりの担い手となる人材を育成するなど、大学との連携強化とふるさと教育を推進し、若者の定着を目指します。

<p><概要> (1) 評価 (KPI) a: 十分に達成されている b: 概ね達成されている c: あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A: 引き続き、現状の取組を推進すべきである B: 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
--	--

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(1) 大学との連携強化	35	市内大学生の県内就職率 市内6大学との新規連携事業・取組数	(H26) 61.7	69.7	% 件 (5年間)	61.5 63	-2.5% 123.5%	b	56.5 56
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							b
① 大学等の特色を生かした共同研究・連携による各種施策の実施		連携協定を締結している市内6大学(鹿児島大学、鹿児島国際大学、志学館大学、鹿児島県立短期大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学)とともに、かごしま水族館との共同研究や桜島大根の有用成分の分析、磯ビーチ活性化策の検討、団地再生の推進、クリエイティブ産業創出支援事業、食育フェスタの開催、明るい選挙推進事業など、各大学の特色を生かした連携事業・取組を実施した。							
② 学生が主体的に地域を学ぶ活動への支援やまちづくりへの関心を高める場の創出		「まちづくり」未来の担い手”育成事業”として、市内学生を対象に課題解決型インターンシップを実施したほか、第六次総合計画策定に係る若者会議や都市マスタープラン策定に向けたワークショップへの学生の参画などを通して、学生の発想をまちづくりに生かすとともに、地元で活躍できる人材育成につなげることができた。							
③ 市内の大学が推進する地域連携・協働事業との連携		志学館大学においては、地域論科目「キャリア概論(かごしま学)」の講師として職員を派遣し、本市のまちづくりに関する講義を行ったほか、鹿児島国際大学においては、産学官地域連携事業「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」において、フィールドワークを受け入れ、学生が地域社会と協働しながら解決策を考え実践する取組を推進した。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
<p>KPIの進捗については、概ね達成されている。 なお、「市内大学生の県内就職率」については、社会経済情勢や雇用環境など諸要因もあり、基準値を下回っているが、R2年度は、R元年度に比べ5%の増となった。 R2年度は、「まちづくり」未来の担い手”育成事業”として、市内学生を対象に課題解決型インターンシップを実施したほか、第六次総合計画策定に向けた若者会議や都市マスタープラン策定に向けたワークショップへの学生の参画などを通して、学生の発想をまちづくりに生かすとともに、地元で活躍できる人材育成につなげることができた。 また、各大学とのその他の連携事業・取組については、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントに関連するものなど一部中止となったものもあったが、新たな取組も始まるなど、充実が図られた。</p>	<p>R3年度は、SDGsの普及・啓発をテーマとした課題解決型インターンシップを実施するとともに、各大学におけるまちづくりに関する講義の実施など、学生のまちづくりへの関心を高める取組を進めるほか、さまざまな分野において、各大学との連携事業・取組をさらに充実・深化させる。</p>	<p>KPIについては、大学との連携強化に向けて、概ね達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、同感染症の拡大による地方回帰の流れが県内就職率にどのように寄与したのかという分析や同感染症の影響を踏まえた効果的な事業の実施方法について検討の上、各大学と協働しながら鹿児島への興味・関心を喚起する取組や地元で活躍できる人材の育成を進めていただきたい。</p> <p style="text-align: right;">A</p>

〔基本的方向〕

地方に魅力ある雇用の場が少ないこと等を背景に、若い世代が大学等の卒業時に大都市圏へ流出しており、地元への定着やUターンを図るためには、雇用環境の改善はもとより、生まれ育った本市の風土を愛し、地域に貢献したいという郷土に対する愛着心を育むことが重要です。
 本市と協定を締結している大学と、それぞれの特色を生かした連携事業をはじめ、市内の6つの大学と連携しながら、歴史、伝統や自然という豊富なフィールドの下で、学生の主体的なまちづくりへの参画や地域を学ぶ活動を通して、若者定着に向けた取組等を推進します。
 また、小学校から高等学校までの各ステージにおいて、郷土の歴史や偉人、先人等を教材にした地域への理解を深める取組や、まちづくりについて夢やアイデアを出し合い、意見交換を行う取組も進め、「ふるさと・鹿児島」への誇りと愛着の心を育みます。
 これらを通して、まちづくりの担い手となる人材を育成するなど、大学との連携強化とふるさと教育を推進し、若者の定着を目指します。

<p><摘要> (1) 評価 (KPI) a:十分に達成されている b:概ね達成されている c:あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見 A:引き続き、現状の取組を推進すべきである B:全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある C:取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔主な施策及び重要業績評価指標(KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標(KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値評価)
						99.1	89.4%	a	100.0
(2)ふるさと教育の推進	36	郷土教育に係る体験活動の実施率	(H26) 90.6	100	%	99.1	89.4%	a	100.0
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							
① 郷土教材の活用や地域人材等の授業への参画		総合的な学習の時間や学校行事等で、地域と学校がより連携して、郷土教育に関する体験的な活動に取り組むことができた。また、個性あふれる学校づくり推進事業により、各学校の卒業生や各界で活躍する郷土出身者等の講師招へいなどを推進した。各学校では、校区の伝統・文化・歴史等を踏まえた郷土教育の全体計画を作成し、地域の人材に協力をいただきながら特色ある郷土教育の取組を行うとともに、伝承活動に関する学習成果を諸行事で発表することができた。							
② 人材育成プログラム(かごしま創志塾・ジュニア創志塾)の策定・実施		人材育成プログラム「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」では、尚古集成館・仙巖園・西郷南洲顕彰館の見学等、郷土の歴史や文化、明治維新で活躍した先人たちの高い志と行動力についての学習や鹿児島はもとより、国内外で活躍している講師による講話等を実施した。また、現塾生を含めたネットワークの構築については、「卒業生からのメッセージ」をホームページに掲載した。さらに、将来にわたって、郷土に対する愛着心や誇りを持って活躍できる人材を育成するために、同窓会や特別講演の案内を行い、情報交換の場や学習機会の提供に努めた。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が10月からとなり、当初予定していた5ステージを3ステージに縮小するなどして実施した。							
③ 職場体験活動の充実		体験的な活動を通して、学校、家庭及び地域における学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする機会を設けた。 R2年度の活動は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、期間の短縮や中止とした学校が多かった。							
④ まちづくり提言の機会の創出		まちづくり人材育成連携事業として、包括連携協定を締結している市内の大学・短期大学において、市政に関する講義等を実施するとともに、学生と市政に関する意見交換等を行うことにより、若い世代の市民参画への意識やまちづくりへの関心を高めている。(鹿児島国際大学、志学館大学、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島県立短期大学の5校で実施、うち、志学館大学、鹿児島純心女子短期大学の2校で二役との意見交換を実施) ※本取組の該当事業である「子どもミーティング」及び「まちづくり人材育成連携事業」の鹿児島大学分については、R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施回数や実施期間を縮小して実施したものもあったが、各学校で工夫しながら体験活動に取り組むことにより、十分に達成されている。 「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」では、郷土教育に係る学習の充実や塾生同士が郷土に対する愛着心や誇りを持ち、互いを高めあうためのネットワーク作りに努めた。	ふるさと教育の推進について、それぞれの主な取組の内容の充実に努めながら、引き続き進めていく。 郷土教材の活用については、学校が目指している「社会に開かれた教育課程」を編成するために、学校評議員会または学校運営協議会とも連携を図りながら、地域人材を活用した教材づくりに努めたい。 「かごしま創志塾」・「ジュニア創志塾」については、魅力あるプログラムを提供するとともに、卒業生の活躍の場の充実を図る。また、ホームページ等での情報発信や塾生同士のネットワーク体制の構築にも努める。 【主なR3年度休止事業】 ・子どもミーティング開催事業	KPIについては、ふるさと教育の推進に向けて、十分に達成されている。引き続き、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、「かごしま創志塾」の卒業生のフォローアップを継続し、ネットワークの形成に努めるとともに、各界で活躍する郷土出身者や「かごしま検定」を実施する鹿児島商工会議所と連携した取組も検討していただきたい。 また、KPIについては、第2期総合戦略において、実施件数や参加者数に係る指標設定を検討していただきたい。

A

重点戦略

(4) 連携中枢都市圏の形成

検証シート総括表 (R2年度)

〔関連する基本目標〕

1. しごとで活力を「つくる」
2. 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」
3. まちの魅力を「みがく」
4. ひと・まちを多彩に「つなぐ」

〔重要業績評価指標〕

主な施策	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	意見 (R2)	R元参考 (実績値)	R元参考 (評価)	根拠統計等
(1) かごしま連携中枢都市圏ビジョンの推進	37	連携事業数	-	27	事業 (7年間)	30	111.1%	a	A	27	a	(市)事業実績
① 圏域全体の経済成長のけん引												
② 高次の都市機能の集積・強化												
③ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上												

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。

<摘要>

(1) 評価 (KPI)

- a : 十分に達成されている
- b : 概ね達成されている
- c : あまり達成されていない

(2) 検証会議の意見

- A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである
- B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある
- C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである

〔基本的方向〕

人口減少や高齢化の進行により、地域コミュニティや生活基盤の存続の危機が懸念されています。このような状況下にあっても、地域経済を持続可能なものとし、安心して快適な暮らしを営んでいけるようになるため、人々の暮らしを支え、経済をけん引していくのにふさわしい核となる都市やその圏域を戦略的に形成し、その上で、人々の暮らしを支える行政サービスを提供していく必要があります。地域の活力を持続し、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようになるためには、一定の人口規模の確保だけでなく、地域経済や都市機能、生活関連機能の面においても、日常生活圏を形成する都市間の連携が重要です。県都として、県全体の発展をけん引する役割も担っている本市と周辺自治体との連携を高め、新たに連携中枢都市圏を形成し、活力ある社会経済の維持を目指します。

<p><概要></p> <p>(1) 評価 (KPI)</p> <p>a : 十分に達成されている</p> <p>b : 概ね達成されている</p> <p>c : あまり達成されていない</p>	<p>(2) 検証会議の意見</p> <p>A : 引き続き、現状の取組を推進すべきである</p> <p>B : 全般的には推進すべきだが、取組の一部を改善する必要がある</p> <p>C : 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討すべきである</p>
---	--

注)*は、当該年度の実績値でなく、参考値を示している。(以下同じ。)

〔主な施策及び重要業績評価指標 (KPI)〕

主な施策の名称	No.	重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値 (R3)	単位	実績値 (R2)	対目標値	評価 (R2)	R元参考 (実績値) 評価
(1) かがしま連携中枢都市圏ビジョンの推進	37	連携事業数	—	27	事業 (7年間)	30	111.1%	a	27
主な取組内容		具体的な取組の内容 (R2)							a
① 圏域全体の経済成長のけん引		産学金官民によるビジョン懇談会や女性、学生等向けの起業応援セミナー、4市による合同企業説明会、グリーン・ツーリズム宿泊体験ツアーなどを実施した。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、錦江湾潮風フェスタ及び鹿児島マラソン2021は中止となった。							
② 高次の都市機能の集積・強化		地域医療の連携を推進するための講演会などを実施した。							
③ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上		図書館の広域利用や災害時帰宅困難者一時避難施設の指定、各市が実施する職員研修への相互参加などを実施した。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、首都圏での移住相談会への4市による合同参加は見送った。							

KPIや具体的な取組の進捗を踏まえた施策全体の評価

施策の進捗等 (R2年度まで)	今後の方向性(考え方)	検証会議の意見
KPIの進捗については、目標値を上回り、十分に達成されている。また、具体的な取組の進捗としては、4市の幹事会やビジョン懇談会、市長会議を開催し、かがしま連携中枢都市圏ビジョンの適切な進行管理を図った。	引き続き、連携事業の効果的な実施に取り組むとともに、新たな連携事業の実施に向けて積極的に検討・協議を行うなど、連携中枢都市圏の着実な推進を図る。	KPIについては、連携中枢都市圏の形成に向けて、十分に達成されている。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、現状の取組を推進すべきである。 なお、施策の推進にあたっては、連携中枢都市である本市の役割を明確にした上で、市民の利便性の向上につながる事業や連携による効果が高い事業を着実に実施していただきたい。 また、KPIについては、目標値を達成していることから、第2期総合戦略において、見直しを検討していただきたい。

